

鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事

図面リスト

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
1	M - 01 表紙・図面リスト	NO SCALE			
2	特 - 1 機械設備工事特記仕様書(1)	NO SCALE			
3	特 - 2 機械設備工事特記仕様書(2)	NO SCALE			
4	特 - 3 機械設備工事特記仕様書(3)	NO SCALE			
5	M - 02 案内図・配置図・凡例	S=1/1000			
6	M - 03 機器表-改修前・改修後	NO SCALE			
7	M - 04 衛生・空調-ボイラー室平面図 【クリエーションセンター】	S=1/100,20			
8	M - 05 煙突解体撤去図 【クリエーションセンター】	NO SCALE			
9	M - 06 オイルタンク撤去図 【クリエーションセンター】	NO SCALE			
10	M - 07 オイルタンク廻り配管図 【クリエーションセンター】	NO SCALE			
11	M - 08 ヘッダー室詳細図 【クリエーションセンター】	S=1/50			
12	M - 09 1階ボイラー室 電気設備 撤去図 【クリエーションセンター】	S=1/30			
13	M - 10 浴場衛生配管平面図(改修後) 【寮管理棟】	S=1/50			
14	M - 11 浴槽落とし込み廻り詳細図・面台断面図(改修前後) 【寮管理棟】	S=1/5,20			
15	M - 12 浴場衛生配管平面図(改修前) 【寮管理棟】	S=1/50			
16	M - 13 自動制御設備 計装図 【寮管理棟】	NO SCALE			
17	M - 14 自動制御設備 ボイラー室平面図(改修前・改修後) 【寮管理棟】	S=1/50			
18	M - 15 自動制御設備 動力2次側 ボイラー室平面図(改修前・改修後) 【寮管理棟】	S=1/50			

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務					鈴鹿工業高等専門学校					工事名称	鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	01/18
	株式会社	ミュートパートナーズ	管理建築士一級建築士登録 第242551号	植田 亮	検図	担当	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担 当	図面名称	表紙・図面リスト	縮尺	1/	番号	M-01
	※A3版の場合は50%縮尺とする																

機械設備工事特記仕様書

I. 工 事 概 要		鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事				
1. 工 事 名 称		三重県鈴鹿市白子町 鈴鹿工業高等専門学校構内				
2. 工 事 場 所		平成27年10月30日(金曜日)				
3. 完 成 期 限						
4. 工 事 の 種 類 規 模 等		工 事 範 囲 表				
建 物 概 要	棟 名 称	カリエーション	寮管理棟	鈴・鹿の通	各々が室	
	工 種	模 様 替	模 様 替	模 様 替	模 様 替	
屋 内 工 事	構 造・階 数	S 1	R 1	R 1	B 1	
	建 築 面 積	2,001㎡	226㎡	236㎡	74㎡	
工 事 概 要	延 べ 面 積	2,132㎡	226㎡	236㎡	74㎡	
	改 修 延 べ 面 積	133㎡	57㎡	236㎡	46㎡	
屋 外 工 事	建 物 使 用 の 有 無	○有・無	○有・無	○有・無	○有・無	○無
	空 気 調 和 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	暖 房 設 備	○	・	・	・	○
	換 気 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	給 水 設 備	・	○	○	○	・
	排 水 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	消 火 設 備	・	・	・	・	・
	給 湯 設 備	・	○	○	・	・
屋 外 工 事	ガ ス 設 備	・	・	・	・	・
	動 力 設 備	動力幹線	・	・	・	・
屋 外 工 事	動 力 設 備	動力分岐	○	○	・	・
	空 気 調 和 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	暖 房 設 備	○	・	・	・	・
	給 水 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	排 水 設 備	・	・	・	・	・
	消 火 設 備	・	・	・	・	・
屋 外 工 事	ガ ス 設 備	・	・	・	・	・
	工 事 構 内 配 電 線 路	・	・	・	・	・

II. 一 般 特 記 事 項						
1. 総 則	(1) この工事の請負者は、独立行政法人発注工事請負等契約規則別記第1号の工事請負契約基準、現場説明書、特記仕様書3枚、図面15枚、公共建築改修工事標準仕様書(統一基準)(電気・機械設備工事編)(平成25年版)、文部科学省電気・機械設備工事標準仕様書(特記基準)(平成25年版)、公共建築設備工事標準図(統一基準)(電気・機械設備工事編)(平成25年版)、文部科学省電気・機械設備工事標準図(特記基準)(平成25年版)、及び工事写真撮影要領に基づき工事を施工する。					
	(2) 特記仕様書の適用方法					
	1) ・印で始まる事項及び表中の・印の事項については、○印を付した事項のみ適用する。					
	2) 表中の各欄に、数字、文字、記号等を記入する事項については、記入してある事項のみを適用する。					
	3) 〓印又は×印で抹消した事項は全て適用しない。					
	4) 特記された材料、製造所、製品名、施工業者等の取り扱い、特記されたもの又は同等以上のものとする。ただし、同等以上のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。					
	5) 左欄の()内の数値は、公共建築改修工事標準仕様書(統一基準)(電気・機械設備工事編)(平成25年版)(以下、「公共改修仕様書」という)及び文部科学省電気・機械設備工事標準仕様書(特記基準)(平成25年版)、(以下、「文科仕様書」という)の該当項目番号を示す。					

III. 一 般 共 通 事 項		概成工期 平成27年10月18日(金曜日)				
1. 実 施 工 程 表 (公共改修仕様書 第1編1.2.1)						
2. 電 気 保 安 技 術 者 等 (公共改修仕様書 第1編1.3.2)	この工事現場に、下記のいずれかの電気保安技術者を選任する。					
	項 目 名	電 気 保 安 技 術 者				
	1. 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○				
	2. 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○				
	3. 高等学校又はこれと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○				
	4. 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○				
	5. 公共事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○				
	6. 第1種電気工事士の資格を有する者	○				
	7. 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	・				
	8. 第2種電気工事士(旧電気工事士)の資格を有する者	・				
	9. 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者	・				
3. 施 工 条 件 (公共改修仕様書 第1編1.3.3)	工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。					

4. 施 工 中 の 環 境 保 全 等 (公共改修仕様書 第1編1.3.9)	○低騒音型・低振動型建設機械の使用 本工事においては、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程」(平成9年7月31日 建設省告示1536号)に基づき国土交通大臣が型式指定を行った低騒音型・低振動型建設機械を使用するものとする。ただし、これにより難い場合は、監督職員と協議の上、必要書類を提出するものとする。 低騒音型建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。 ○排ガス対策型建設機械 本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律」(平成17年法律第51号)に基づく技術基準に適合する機械、又は、「排出ガス対策型建設機械指定要領」(平成3年10月8日付け建設省経機発第249号)、「排出ガス対策型建設機械の普及促進に関する規定」(平成18年3月17日 国土交通省告示第348号)もしくは「第3次排出ガス対策型建設機械指定要領」(平成18年3月17日付け国総施第215号)に基づき指定された排出ガス対策型建設機械を使用するものとする。排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、もしくは建設技術審査証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着することで排出ガス対策型機械と同等と見なす。ただ、これにより難い場合は、監督職員と協議するものとする。排出ガス対策型建設機械、又は排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の写真撮影を行い、監督職員に提出するものとする。
--	--

機 種	適 用
バックホウ	ディーゼルエンジン(エンジン出力8kw、560kw以下)を搭載したものに限る
ホイールローダ	
ブルドーザ	
発動電動機(可搬式、溶接兼用機を含む)	ディーゼルエンジン(エンジン出力7.5kw、260kw以下)を搭載したものに限る
空気圧縮機(可搬式)	
油圧ユニット(基礎工用機械で独立したものを除く)	
ホイールクレーン(ラフテレーンクレーン)	

5. 環 境 へ の 配 慮 (公共改修仕様書 第1編1.4.1)	○ディーゼル車排出ガス規制に適合した車両 ① 受注者は本工事現場で使用し、又は使用される関係車両(以下「本工事関係車両」という。)が、当該工事現場のディーゼル車排出ガス規制条例(以下「排出ガス規制条例」という。)の適用を受ける場合は、これに適合した車両を使用しなければならない。 ② 受注者は、本工事の施工に先立ち、本工事関係車両の「ディーゼル車排出ガス規制に適合する車両の使用」について、排出ガス規制条例の遵守を施工計画書に記載しなければならない。 ③ 受注者は、本工事関係車両にディーゼル車を使用する場合には、車検証のコピーを保管し、本工事関係車両を把握しなければならない。 ④ 受注者は、取締りにより本工事関係車両に違法行為等があった場合には、直ちに監督職員に報告しなければならない。 ⑤ 受注者は、資機材の搬出入等において、資材納入業者に排出ガス規制条例を遵守させるものとする。
--------------------------------------	--

6. 機 材 の 検 査 等 (公共改修仕様書 第1編1.4.5)	監督職員が行う機材の検査及び機材検査に伴う試験は下記による。
--------------------------------------	--------------------------------

機 材 名	検 査 試 験	備 考
	・	・
	・	・
	・	・
	・	・

7. 技 能 士 (公共改修仕様書 第1編1.6.2)	○配管(配管工事) ・ 建築板金(ダクト製作及び取付) ○熱絶縁施工(保温工事) ・ 冷凍空調と機器施工(チリングユニット、パッケージ形空調調機の据付及び整備)
--------------------------------	--

8. 一 工 程 の 施 工 の 確 認 及 び 報 告 (公共改修仕様書 第1編1.6.4)	下記の工事部分は、施工の確認及び報告を監督職員に行うものとする。
工 事 部 分	確 認 ・ 報 告 事 項

9. 施 工 の 検 査 等 (公共改修仕様書 第1編1.6.5)	下記の施工部分は、監督職員の検査・立会い・検査に伴う試験を受ける。	
工 事 部 分	検 査 立 会 試 験	備 考
	・	・
	・	・
	・	・
	・	・

10. 技 術 検 査 (公共改修仕様書 第1編1.7.2)	工事完成時には、下記の完成図等を提出するものとする。	
名 称	体 裁 等	部 数
○完成図	原因(A1)	1部
○ "	仮製本(A1)	1部
※○ "	製本(A1判4ツ折)	1部
○施工図	原因(A1)	1部
○ "	仮製本(A1)	1部
※○機器完成図		1部
※○各種試験成績書		1部
※○諸手続き書類(写)		1部
※○保全指導書		1部
○工事写真帳	○電子媒体 ○紙媒体(7x11綴じ)	1部
CADデータ(○要 ・ 不要)		
本工事は、次の書類について電子データ提出の対象とする。		
○工事写真 ・ 完成写真 ○完成図		
貸与する設計図のCADデータ著作権者名:	ファイル形式: JWW	
貸与条件: 貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図作成のため以外に使用しないこと。		
提出方法: CADデータファイル形式はJWW・JWC・DXF形式とする。		
4)完成図はA1判とし、製本はA4黒表紙、工事名称等は金文字入		
2)表中※印は、一冊にまとめてよい。		
3)完成図面・特記仕様書・現場説明書等一式をA3判原図1部と、A3判2ツ折製本2部を提出する。		
12. 保 全 に 関 する 資 料 (公共改修仕様書 第1編1.8.4)	下記に示す機器及びシステムについては、当該機器又はシステムを運用する職員に対しその機能・操作の説明、保守点検の要領及び障害時の対策等を説明するものとする。 ・ 給湯システム 一式	
13. 足 場 (公共改修仕様書 第1編2.2.1)	仮設間仕切り	
14. 監 督 職 員 事 務 所 (公共改修仕様書 第1編2.3.1)		
15. 養 生 (公共改修仕様書 第1編第3章)	・ 図示による ・ 下記による	
16. 撤 去 (公共改修仕様書 第1編第4章)		
17. 撤 去 跡 の 補 修 及 び 復 旧 (公共改修仕様書 第1編4.2.4)		
18. 発 生 材 の 処 理 等 (公共改修仕様書 第1編第5章)	発生材の処理は、下記による。 (1) 引き渡しを要するもの 1)品 名 2)引渡し先 3)集積場所 (2) 特別管理産業廃棄物 1)品 名 2)引渡し先 3)集積場所 4)集積方法 (3) 現場において再利用するもの 1)品 名 2)使用場所 (4)再生資源化(再利用)するもの 1)品 名 (5) 関係法令に従い適切に処理するもの 1)品 名 全ての発生材	
19. 工 事 の 区 分	該当項目については全て本工事とする。	

項 目	備 考
名 称	摘 要
コンクリート穴あけ	鉄骨工事鉄管スリーブ入れ 墨出し共
"	梁、壁木製型枠入れ 墨出し、補修除く
"	梁、壁スリーブ入れ ボイド等

項 目	備 考
名 称	摘 要
コンクリート穴あけ	床スラブ木製型枠入れ 墨出し、補修除く
"	床スリーブ入れ ボイド等
同上開口部補強	鉄筋切断及び補強筋入れ
既設コンクリート 床・壁 はつり穴あけ	墨出し共
既設コンクリート 床溝はつり・補修	鉄筋切断及び補強筋入れ 墨出し共
既設器具・配管・ダクト撤去後の穴埋め	補強配筋が必要な穴埋は建築工事
天井改め口	改め口取付及び、開口部補強 ボード切込、墨出し共
天井開口を必要としないボード等の切開	
軽量鉄骨下地開口補強	天井及び壁、ボード切開 照明器具、空調吹出口 給排気ガラリ等
軽鉄下地開口部墨出し	電気関係開口部
軽鉄下地開口部墨出し	機械設備関係開口部
盤等重量物の下地補強	露出形器具取付用
床下改め口	改め口取付及び、開口部補強
流し台	ステンレス製 水切り板、同穴あけ共
"	ミニキッチン等(含む排水金具) レンジフード換気扇、付属品共
"	陶器製
水栓、電気温水器	
洗面化粧台	
鏡	
化粧用洗面器	
化粧カウンター	洗面器用穴あけ共
ラインングバック	
ルーフトレイン	
立てどい	防露工事共
雨水排水管	第1樹から排水幹線までの配管 第1樹まで配管
"	幹線の配管 第1樹を含む
生活排水、実験排水	建物及び第1樹までの配管
"	第1樹から排水幹線までの配管
"	幹線の配管
アスファルト舗装等 撤去	
アスファルト舗装等 復旧	
機械基礎	
室外機用鉄骨架台	
機械用アンカーボルト型枠入れ	ボイラ、冷凍機等機械設備関係機器 墨出し共
機械用アンカーボルト型枠入れ	自家発電機その他電気関係機器 墨出し共
屋外貯油槽	地下式
共同溝	歩床コンクリート共
建物、共同溝接続トレンチ	
同上接続部止水板	
防火用水池	
防火用水地用給水管	
各種槽類	コンクリート類
"	SUS、FRP製
換気扇取付	天井扇等・全熱交換器型 含む フード共
同上用枠、取付板等	木製、アルミ製、鉄製
同上用配管配線	SUF、配線は機械設備
外壁取付ガラリ	給排気用 ベンドキャップは機械
内壁取付ガラリ	遮光ガラリ共
ガラリへの給排気ダクト接続	
煙感知器連動防火戸	
同上用煙感知器	リレー及びリレーまでの配管配線共
防煙防火ダンパー	リレー取付まで①
煙感知器連動シャッター	リレー取付まで②
煙感知器連動防煙垂れ壁	リレー取付まで③
上記①～③用煙感知器	リレーまでの配管配線共
道路側清用排水	L型・U型と管布設
制御盤	制御盤以降の配管、配線共
同上接続(一次側)	制御盤主開閉器までの配管配線 接地共
屋内消火栓	消火ポンプ、制御盤
屋内消火栓起動リレー	
同上表示灯及び起動装置	
自動火災報知器	
連結送水口	座板共
独立煙突	
同上煙道	鋼板製
同上避雷設備	
配管配線ビット	蓋の切開共
二重床の配管、配線用開口	フリーアクセスフロア等
コンクリートシャフト点検口	
機械室の防音遮音処理	
雷保護設備	
保守点検用タラップ、はしご	

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	02/18
		鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務				事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担 当	
		株式会社 ミ ュ ー パ ー ナ ー ズ				検 閲	担 当				
		管理建築士 一級建築士登録 第242551号 橋田 亮									
		機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書 (1)				縮尺	番 号				特-1

項目		備考
名称	摘要	
コンセント設置	ピット内、機械室内	
インタホン配線	シャフト外	
〃	シャフト内	
非常放送用スピーカ		
同上用配線	シャフト外	
〃	シャフト内	
監視カメラ		
同上用配線	シャフト外	
〃	シャフト内	
点検用タラップ	ピット内	
室内テレビ用吊金物		
防火区画貫通部補修		モルタル充てん等
機器・配管取付後の壁、床等の補修		
テレビアンテナ	取付共	
グリストラップ及びガソリントラップ	コンクリート製	
	ステンレス鋼板製	
ALCパネルの穴あけ、補修	ダクト等の貫通部	
PC版の穴あけ	スリーブ入れ	
同上補修	区画貫通処理	モルタル充てん
電動シャッター、自動扉の配管配線	二次側。操作盤、押しボタン取付共	
同上用配線、接続	一次側	
ユニットバス本体	据付共	換気扇共
同上用配線	一次側接続まで。SWの取付配線	
同上用配管	接続まで	
冷蔵、冷凍、恒温恒湿、シールド、防音、無音室等	現場製作	
恒温恒湿室	プレハブ型	
無音室等	現場製作	
〃	プレハブ型	
芝生、種子吹付け		
法枠、モルタル吹付け		
コンクリート擁壁		
植栽		
電気錠		本体・金具・二次側配線
〃		一次側配線
洗濯機パン		
アルミパネルの穴あけ、補修		
昇降機設備本体	三方枠、同取付後の壁補修まで	
昇降機用シャフト	天井フック、床シンダーコンクリート、防塵塗料、搬入用等開口、換気口共	
昇降機用監視盤		
昇降機換気扇取付		
各種信号用制御線	停電用、火災用等	
三方枠周囲の壁仕上		
各階出入口用開口	敷居取付用持出し共	
昇降路内中間ビーム設置		
ピット内防水		
動力、照明用電源、接地引込み		制御盤一次側
〃		本体から制御盤まで

IV. 共通工事																									
1. 総合調整 (公共改修仕様書 第2編1.3.2)	下記の項目について総合調整を行い測定表を提出する。 ・風量調整 ・水量調整 ・室内外空気の温湿度の測定 ・室内気流及びじんあいの測定 ・騒音の測定																								
2. 配管工事 2.1 ()																									
2.2 施工 ()																									
2.3 再生を行う場合の留意事項 (公共改修仕様書 第2編2.2.11)																									
2.4 埋設配管 (公共改修仕様書 第2編2.5.1)	図示の地中の埋設配管には、下記の表示を行う。 ○埋設表示テープ() ○地中埋設標 (・標準図による(製))																								
2.5 埋設深さ (公共改修仕様書 第2編2.5.2)	地中埋設配管の深さは、下記による。 ○一般敷地(300mm以上) ○車両道路(600mm以上)																								
3. 保温・塗装・防錆工事 3.1 保温工事 (公共改修仕様書 第2編第3章第1節)	保温仕様は下記によるものとし、下記以外のものは標準仕様書による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="4">保温仕様</th> </tr> <tr> <th>屋内天井露出</th> <th>天井暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>壁内露出</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> <tr><td></td><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr> </tbody> </table> ・口径38.10mm以下の冷媒管は、冷媒用被覆断熱銅管を用いる場合は、保温材厚さは液管で10mm、ガス管で20mmとする。ただし、液管に使用する口径9.52mm以下の配管については、保温材厚さを8mmとしてもよい。 ・給水管のピット内及び共同構内は保温を施さない。 ・全熱交換器の一次側ダクトには、給気側全て・排気側は外壁より1m内側の範囲について保温を行う。 ・排風機のダクトは凍結防止のため外壁からチャッキダンパーまで保温を行う。チャッキダンパーがないものは外壁より1m内側の範囲まで保温を行う。 ・通気配管は、結露防止のため外壁より1m内側の範囲まで保温を行う。 ・外気取り入れダクトには保温を行う。 ○屋内露出をする給水、排水の保温外装はステンレス鋼板とする。 ・屋外冷媒管保温外装は耐食鋼板製化粧カバーとする。 ・屋外露出の屋内消火栓管は保温を行う。(e2・D・VII)	施工箇所	保温仕様				屋内天井露出	天井暗渠内	屋外露出	壁内露出		・	・	・	・		・	・	・	・		・	・	・	・
施工箇所	保温仕様																								
	屋内天井露出	天井暗渠内	屋外露出	壁内露出																					
	・	・	・	・																					
	・	・	・	・																					
	・	・	・	・																					
3.2 塗装工事 防錆工事 (公共改修仕様書 第2編3.2.1) (公共改修仕様書 第2編3.2.2)	塗装箇所は下記による。塗装仕様及び防錆仕様は下記によるものとし、下記以外のものは標準仕様書による。																								
4. はつり・穴開け (公共改修仕様書 第2編第4章)																									
5. インサート及びアンカー (公共改修仕様書 第2編第5章)																									
6. 電気工事 6.1 配管配線																									
6.2 施工																									
7. 関連工事 7.1 土工事 (公共改修仕様書 第2編第7章第1節)	土工事は下記による。 1) 埋め戻し土は下記による。 2) 不用土の処分は下記による。 ○根切り土 ○構内指示の場所に敷き均し ・根切り土及び搬入土 ・構内指示の場所に積み上げ ・搬入土 ・構外に搬出し適切処分 搬入土は、山砂等とする。																								

7.2 地業工事 (公共改修仕様書 第2編第7章第2節)																																																																							
7.3 コンクリート工事 (公共改修仕様書 第2編第7章第3節)																																																																							
7.4 左官工事 (公共改修仕様書 第2編第7章第4節)	機械基礎等のコンクリート面の仕上げは下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>仕上げ</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>・モルタル塗り</td><td></td></tr> <tr><td>・コンクリートこて仕上げ</td><td></td></tr> </tbody> </table>	仕上げ	備考	・モルタル塗り		・コンクリートこて仕上げ																																																																	
仕上げ	備考																																																																						
・モルタル塗り																																																																							
・コンクリートこて仕上げ																																																																							
7.5 鋼材工事 (公共改修仕様書 第2編第7章第5節)																																																																							
V. 空気調和設備工事																																																																							
1. 一般事項	1) 外気及び室内又は系統の設計温湿度条件は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">設計温湿度条件</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>外気条件及び室名又は系統名</th> <th>夏期 乾球温度 36.9℃</th> <th>相対湿度 51%</th> <th>冬期 乾球温度 -0.9℃</th> <th>相対湿度 54%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>室総務課・学生課等</td> <td>26.0</td> <td>成行き</td> <td>22.0</td> <td>成行き</td> </tr> </tbody> </table>	設計温湿度条件				備考	外気条件及び室名又は系統名	夏期 乾球温度 36.9℃	相対湿度 51%	冬期 乾球温度 -0.9℃	相対湿度 54%	室総務課・学生課等	26.0	成行き	22.0	成行き																																																							
設計温湿度条件				備考																																																																			
外気条件及び室名又は系統名	夏期 乾球温度 36.9℃	相対湿度 51%	冬期 乾球温度 -0.9℃		相対湿度 54%																																																																		
室総務課・学生課等	26.0	成行き	22.0	成行き																																																																			
	2) 冷温水、蒸気等の設計供給条件は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>系統名等</th> <th>設計供給条件</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷水</td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>温水</td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高温水</td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>℃～℃</td> <td></td> </tr> <tr> <td>蒸気</td> <td></td> <td>MPa</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>MPa</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>MPa</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種別	系統名等	設計供給条件	備考	冷水		℃～℃				℃～℃		温水		℃～℃				℃～℃		高温水		℃～℃				℃～℃		蒸気		MPa				MPa				MPa																															
種別	系統名等	設計供給条件	備考																																																																				
冷水		℃～℃																																																																					
		℃～℃																																																																					
温水		℃～℃																																																																					
		℃～℃																																																																					
高温水		℃～℃																																																																					
		℃～℃																																																																					
蒸気		MPa																																																																					
		MPa																																																																					
		MPa																																																																					
2. 機材 2.1 配管材料等	○図示による・下記による <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>配管種別</th> <th>継手種別</th> <th>施工場所、備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">冷温水管</td> <td>・配管用炭素鋼鋼管(白)</td> <td>ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)</td> <td>圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">冷却配管</td> <td>・配管用炭素鋼鋼管(白)</td> <td>ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)</td> <td>圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">蒸気管 往管</td> <td>・配管用炭素鋼鋼管(黒)</td> <td>ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">還管</td> <td>・配管用炭素鋼鋼管(黒)</td> <td>ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ステンレス鋼管</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">高温水管</td> <td>・配管用炭素鋼鋼管(黒)</td> <td>ねじ込み式可鍛鉄製管継手</td> <td>呼び径50以下はねじ接合</td> </tr> <tr> <td>・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)</td> <td></td> <td>呼び径65以上は溶接接合</td> </tr> <tr> <td>・一般配管用ステンレス鋼管</td> <td></td> <td>フランジ接合</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">配管用ステンレス鋼管(溶接管)</td> <td></td> <td></td> <td>溶接接合</td> </tr> <tr> <td>冷媒管</td> <td>・冷媒用被覆断熱銅管</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">空調用排水管</td> <td>・結露防止層付硬質塩化ビニル管</td> <td>専用継手</td> <td>屋内一般</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル管</td> <td>硬質塩化ビニル管継手</td> <td>屋外・土中埋設</td> </tr> <tr> <td>高温水管の勾配は1/150～1/250で水抜き及び空気抜きが容易にできるように適切にとる。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	用途	配管種別	継手種別	施工場所、備考	冷温水管	・配管用炭素鋼鋼管(白)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手		・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)	圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手		冷却配管	・配管用炭素鋼鋼管(白)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手		・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)	圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手		蒸気管 往管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手		・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)			・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)			還管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手		・ステンレス鋼管			・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)			・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)			高温水管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手	呼び径50以下はねじ接合	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)		呼び径65以上は溶接接合	・一般配管用ステンレス鋼管		フランジ接合	配管用ステンレス鋼管(溶接管)			溶接接合	冷媒管	・冷媒用被覆断熱銅管			空調用排水管	・結露防止層付硬質塩化ビニル管	専用継手	屋内一般	・硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル管継手	屋外・土中埋設	高温水管の勾配は1/150～1/250で水抜き及び空気抜きが容易にできるように適切にとる。			
用途	配管種別	継手種別	施工場所、備考																																																																				
冷温水管	・配管用炭素鋼鋼管(白)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)	圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
冷却配管	・配管用炭素鋼鋼管(白)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)	圧力配管用ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
蒸気管 往管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)																																																																						
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)																																																																						
還管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手																																																																					
	・ステンレス鋼管																																																																						
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)																																																																						
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(STPG370)																																																																						
高温水管	・配管用炭素鋼鋼管(黒)	ねじ込み式可鍛鉄製管継手	呼び径50以下はねじ接合																																																																				
	・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40)		呼び径65以上は溶接接合																																																																				
	・一般配管用ステンレス鋼管		フランジ接合																																																																				
配管用ステンレス鋼管(溶接管)			溶接接合																																																																				
	冷媒管	・冷媒用被覆断熱銅管																																																																					
空調用排水管	・結露防止層付硬質塩化ビニル管	専用継手	屋内一般																																																																				
	・硬質塩化ビニル管	硬質塩化ビニル管継手	屋外・土中埋設																																																																				
高温水管の勾配は1/150～1/250で水抜き及び空気抜きが容易にできるように適切にとる。																																																																							

2.2 井類	○図示による・下記による <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種別</th> <th>施工場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	用途	種別	施工場所																																													
用途	種別	施工場所																																															
2.3 ダクト及びダクト付属品 (公共改修仕様書 第3編第1章第2節) (文科仕様書 第3編第1章第2節)	1) ダクト及びチャンバーの表示寸法は、外形寸法を示す。 2) ダクトの材質及び使用場所は下記によるものとし、下記以外は標準仕様書による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材質</th> <th>使用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長方形</td> <td>・ステンレス鋼板製(SUS A) ・ステンレス鋼板製(SUS B)</td> </tr> <tr> <td>ダクト</td> <td>・塩化ビニルライニング鋼板製(両面) ・グラスウール製 ・硬質塩化ビニル管</td> </tr> <tr> <td>ト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td>・ステンレス鋼板製</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td>・硬質塩化ビニルライニング鋼板製(両面)</td> </tr> <tr> <td>ダクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>・グラスウール製円形ダクト ・硬質ポリ塩化ビニル管(VU) ・フレキシブルダクト ・フレキシブルダクト(断熱材付)</td> </tr> </tbody> </table> 3) ダクトの付属品は、下記による。 ・バンドキャップは、SUS製丸形フード(ガラリ型)とし水切り付きとする。 ・塩化ビニルライニング鋼板製(両面)に接続するダンパー類は、内面をエポキシ又は、塩ビコーティングを施したものとする。 ・ドラフトチャンパー系統を除く天井内の丸ダクトはフレキシブルダクトとする。 ・バンドキャップは、焼付塗装とする。	材質	使用箇所	長方形	・ステンレス鋼板製(SUS A) ・ステンレス鋼板製(SUS B)	ダクト	・塩化ビニルライニング鋼板製(両面) ・グラスウール製 ・硬質塩化ビニル管	ト		ス	・ステンレス鋼板製	イ	・硬質塩化ビニルライニング鋼板製(両面)	ダクト		その他	・グラスウール製円形ダクト ・硬質ポリ塩化ビニル管(VU) ・フレキシブルダクト ・フレキシブルダクト(断熱材付)																																
材質	使用箇所																																																
長方形	・ステンレス鋼板製(SUS A) ・ステンレス鋼板製(SUS B)																																																
ダクト	・塩化ビニルライニング鋼板製(両面) ・グラスウール製 ・硬質塩化ビニル管																																																
ト																																																	
ス	・ステンレス鋼板製																																																
イ	・硬質塩化ビニルライニング鋼板製(両面)																																																
ダクト																																																	
その他	・グラスウール製円形ダクト ・硬質ポリ塩化ビニル管(VU) ・フレキシブルダクト ・フレキシブルダクト(断熱材付)																																																
2.4 ダクトの再利用 ・撤去・清掃 (公共改修仕様書 第3編2.2.8) (公共改修仕様書 第3編2.2.9) (公共改修仕様書 第3編2.4.5)																																																	
2.5 ()																																																	
3. 施工 ()	機器を固定する場合の設計用水平震度は下記による。 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="4">タンク以外の機器</th> </tr> <tr> <th>特定の施設 重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>一般の施設 重要機器</th> <th>一般の施設 一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階 屋上及び塔屋</td> <td>・ 2.0 (2.0)</td> <td>○ 1.5 (2.0)</td> <td>・ 1.5 (2.0)</td> <td>・ 1.0 (1.5)</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>・ 1.5 (1.5)</td> <td>○ 1.0 (1.5)</td> <td>・ 1.0 (1.5)</td> <td>・ 0.6 (1.0)</td> </tr> <tr> <td>1階及び 地下階</td> <td>・ 1.0 (1.0)</td> <td>○ 0.6 (1.0)</td> <td>・ 0.6 (1.0)</td> <td>・ 0.4 (0.6)</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="4">タンク</th> </tr> <tr> <th>特定の施設 重要機器</th> <th>一般機器</th> <th>一般の施設 重要機器</th> <th>一般の施設 一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上層階 屋上及び塔屋</td> <td>・ 2.0</td> <td>○ 1.5</td> <td>・ 1.5</td> <td>・ 1.0</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>・ 1.5</td> <td>○ 1.0</td> <td>・ 1.0</td> <td>・ 0.6</td> </tr> <tr> <td>1階及び 地下階</td> <td>・ 1.5</td> <td>○ 1.0</td> <td>・ 1.0</td> <td>・ 0.6</td> </tr> </tbody> </table> ()内の数値は防振支持の機器の場合を示す。 重要機器は、下記による。	設置場所	タンク以外の機器				特定の施設 重要機器	一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器	上層階 屋上及び塔屋	・ 2.0 (2.0)	○ 1.5 (2.0)	・ 1.5 (2.0)	・ 1.0 (1.5)	中間階	・ 1.5 (1.5)	○ 1.0 (1.5)	・ 1.0 (1.5)	・ 0.6 (1.0)	1階及び 地下階	・ 1.0 (1.0)	○ 0.6 (1.0)	・ 0.6 (1.0)	・ 0.4 (0.6)	設置場所	タンク				特定の施設 重要機器	一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器	上層階 屋上及び塔屋	・ 2.0	○ 1.5	・ 1.5	・ 1.0	中間階	・ 1.5	○ 1.0	・ 1.0	・ 0.6	1階及び 地下階	・ 1.5	○ 1.0	・ 1.0	・ 0.6
設置場所	タンク以外の機器																																																
	特定の施設 重要機器	一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器																																													
上層階 屋上及び塔屋	・ 2.0 (2.0)	○ 1.5 (2.0)	・ 1.5 (2.0)	・ 1.0 (1.5)																																													
中間階	・ 1.5 (1.5)	○ 1.0 (1.5)	・ 1.0 (1.5)	・ 0.6 (1.0)																																													
1階及び 地下階	・ 1.0 (1.0)	○ 0.6 (1.0)	・ 0.6 (1.0)	・ 0.4 (0.6)																																													
設置場所	タンク																																																
	特定の施設 重要機器	一般機器	一般の施設 重要機器	一般の施設 一般機器																																													
上層階 屋上及び塔屋	・ 2.0	○ 1.5	・ 1.5	・ 1.0																																													
中間階	・ 1.5	○ 1.0	・ 1.0	・ 0.6																																													
1階及び 地下階	・ 1.5	○ 1.0	・ 1.0	・ 0.6																																													
VI. 自動制御設備工事																																																	
1. 機材 1.1 配管配線 その他																																																	
1.2 ()																																																	
2. 施工 ()																																																	

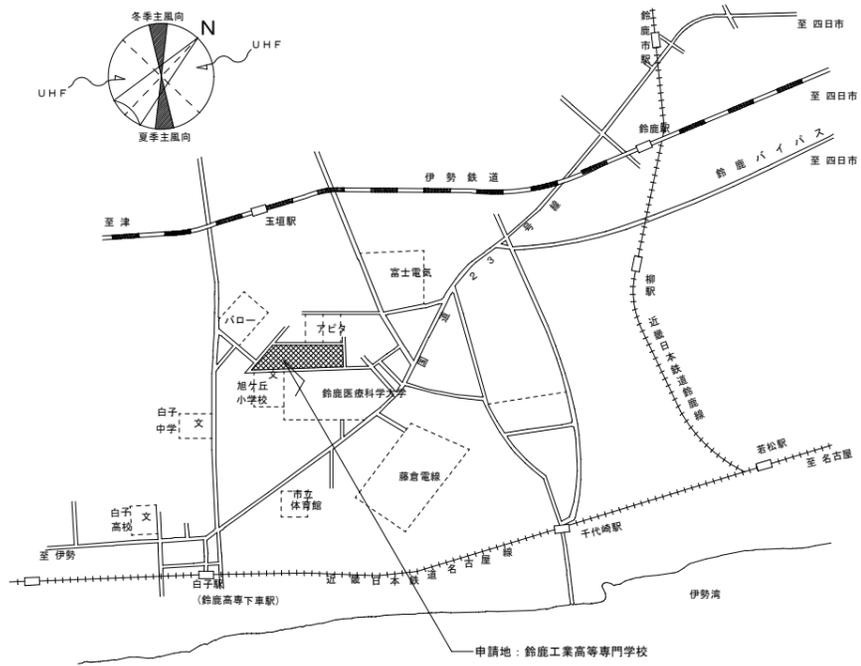
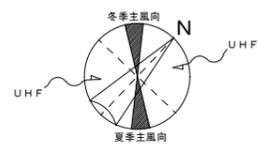
記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	03/18
		鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務				事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当	
		株式会社 ミューパートナーズ				管理建築士	一級建築士登録 第242551号	植田 亮	横田	担当	
						図面名称	機械設備工事特記仕様書(2)		縮尺	1/	番号

VII. 給排水衛生設備工事	
1. 一般事項	給排水工事の種類は、下記による。 給水設備 ○市水 ・井水 ・再利用水 ・その他() 給湯設備 ・局所式 ○中央式(給湯温度 ℃) 消火設備 ・屋内消火栓() ・屋外消火栓 ・スプリンクラー ・二酸化炭素消火設備 ・連結送水管設備 ・その他() 屋内排水設備 ・雑排水 ・汚水 ・実験排水 ・その他() 屋外排水設備 ・汚水、雑排水 ・実験排水 ・雨水 ・その他() 排水放流先 ・構内合併処理施設 ・公共下水道 ・その他()
2. 機材	
2.1 配管材料等	・図示による ○下記による 用途 配管種別 継手種別 施工場所 一般配管 ○ポリ粉体鋼管(PD) 管端防食継手 フランジ継手 全系統(80A以下) 全系統(100A以上) ・ステンレス鋼管() 拡管式管継手 ハウジング形管継手 全系統(50A以下) 全系統(65A以上) ・塩ビライニング鋼管() ・ 地中埋設配管 ・塩ビライニング鋼管() ○ポリ粉体鋼管(PD) JWVA K 132 屋内地中(土間) ・ポリエチレン管 JWV 144 屋外地中 ・ ・ 計器類 量水器の区分は下記による。 親メーター(・貸与品 ・買取り) 子メーター(・貸与品 ○買取り) 量水器樹 ○標準図による ・水道事業者指定品 ・その他(図面に特記)
2.2 量水器	
2.3 弁類	・図示による ○下記による 弁種類 圧力 施工場所 ○管端防食ねじ込み形弁 全系統 ・青銅弁 ・ステンレス鋼弁 ○クハニ形ゴムシートパライ弁 全系統
2.4 給水装置	給水装置の構造及び材質の基準に関する省令(平成9年3月19日厚生労働省令第14号)における基準適合部品を用いること。
3. 機材	
3.1 配管材料等	・図示による ・下記による 用途 配管種別 継手種別 施工場所 屋内汚水配管 ・排水用塩ビライニング鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管 硬質塩化ビニル管継手 土間埋設・ピット ・耐火二層管 耐火二層管継手 一般 屋内一般雑排水管 ・配管用炭素鋼鋼管(白) ・排水用塩ビライニング鋼管 ・排水用鉛管 ・硬質ポリ塩化ビニル管 硬質塩化ビニル管継手 土間埋設・ピット ・耐火二層管 耐火二層管継手 一般 一般用排水通気管 ・配管用炭素鋼鋼管(白) 屋外排水管 ・硬質ポリ塩化ビニル管 ・遠心力鉄筋コンクリート管 ・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 専用継手 ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管
3.2 排水樹	排水樹は、下記による。 ・標準図による(・SA形 ・SB形 ○硬質塩化ビニル ・形) ・その他(図面に特記)
3.3	

4. 機材	
4.1 配管材料等	・図示による ○下記による 用途 配管種別 継手種別 施工場所 一般配管 ○耐熱性内外面ライニング鋼管 管端防食継手 全系統 ・鋼管
4.2 弁類	・図示による ○下記による 弁種類 圧力 施工場所 ○管端防食ねじ込み型弁 ・青銅弁 ○クハニ形ゴムシートパライ弁
4.3	
5. 材料	
5.1 配管材料等	・図示による ・下記による 用途 配管種別 継手種別 施工場所 一般配管 ・配管用炭素鋼鋼管 ・圧力配管用炭素鋼鋼管(Sch40) ・
5.2	
6. 施工	機器を固定する場合の設計用水平震度は下記による。 タンク以外の機器 設置場所 特定の施設 一般の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階 ・ 2.0 ○ 1.5 ・ 1.5 ・ 1.0 屋上及び塔屋 (2.0) (2.0) (2.0) (1.5) 中間階 ・ 1.5 ○ 1.0 ・ 1.0 ・ 0.6 (1.5) (1.5) (1.5) (1.0) 1階及び地下階 ・ 1.0 ○ 0.6 ・ 0.6 ・ 0.4 (1.0) (1.0) (1.0) (0.6) タンク 設置場所 特定の施設 一般の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上層階 ・ 2.0 ○ 1.5 ・ 1.5 ・ 1.0 屋上及び塔屋 中間階 ・ 1.5 ○ 1.0 ・ 1.0 ・ 0.6 1階及び地下階 ・ 1.5 ○ 1.0 ・ 1.0 ・ 0.6 ()内の数値は防振支持の機器の場合を示す。 重要機器は、下記による。

VIII. 電気設備工事(共通事項)	
2. 電線の色別(公共改修仕様書)(第2編2.1.4)	配線及び主回路の導体の色別は、次による。 ○標準仕様書による。 ・配線及び主回路の導体の色別は、下記による。 電気方式 第1相 第2相 第3相 中性相 高圧 三相3線式 主回路導体は、その端部又は一部に当該地区の電力会社の相色別による色別を施すものとする。 低圧 三相3線式 赤 接地側 白 黒 三相4線式 赤 青 黒 白 単相2線式 赤 (青) 接地側 白 単相3線式 赤 青 白 直流2線式 青 白 配線 (1)分岐回路の色別 分岐前の色別による。 (2)発電回路の第2相 接地側の電線の色は、黄色とする。(無停電回路含む) (3)切替回路2次側 規定しない。 線 (4)漏電遮断器の専用接地極とした時の接地線は、一般接地線と識別を区別し、黄色とする。 共通事項 配線(1)~(4)による。 分電盤類 左右・上下及び逼近の別は、正面から見た状態 ア)左右の別は、左からとする。 イ)上下の別は上からとし、直流2線式は、下からとする。 ウ)逼近の別は近いほうからとし、直流2線式は、遠いほうからとする。 [備考] (a)配電盤類については、次による。 (1)左右、逼近の別は各回路部分における主となる開閉器の操作側又は、これに準ずる側から見た状態とし、分電盤類による。 (2)三相回路又は単相3線式回路より分岐する回路は、分岐前の色別による。 (3)三相交流の相は、第1相、第2相、第3相の順に相回転するものとする。 (b)屋外架空配線の色別は、本表によらなくてよい。 (c)接地線の色別は、監督職員の承諾を受けること。

記事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	日付	総数
		鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務				鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事	平成27年6月	04/18
		株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮	検閲	担当	図面名称	縮尺	番号
					機械設備工事特記仕様書(3)	特-3		

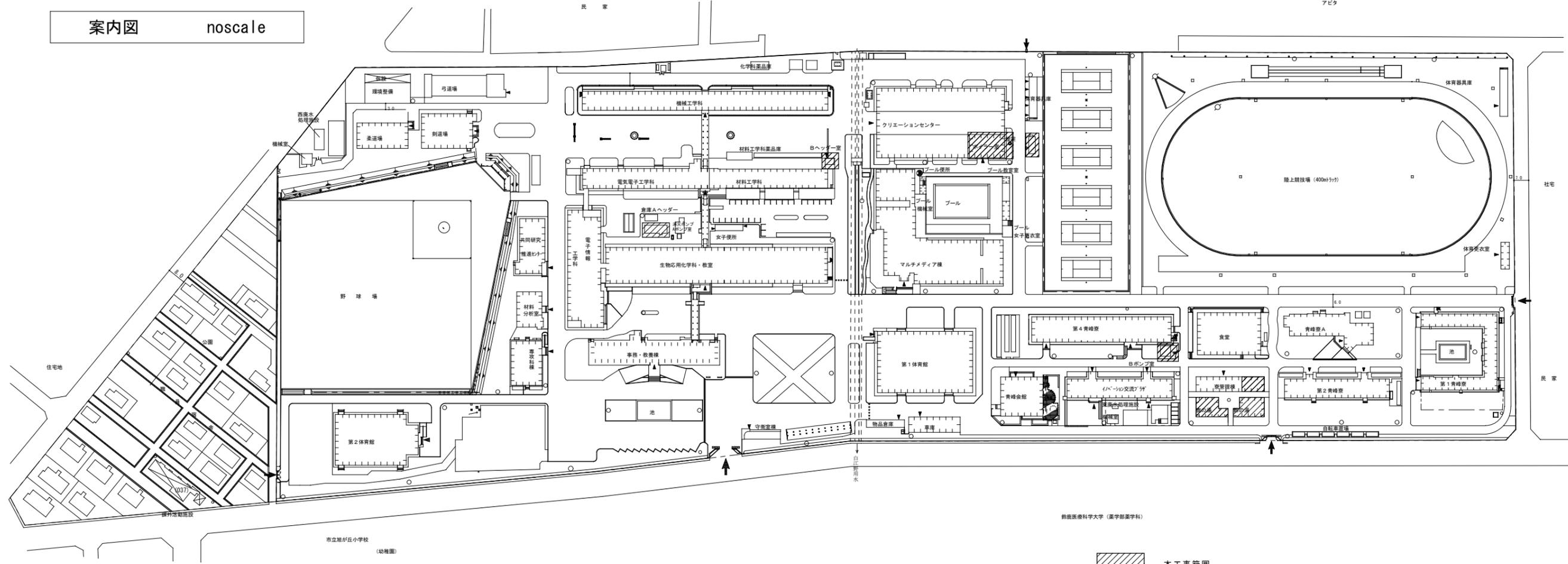
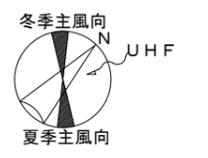


案内図 noscale

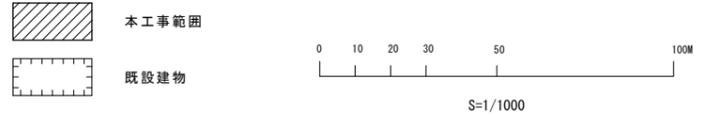
凡例 (衛生)		
記号	名称	備考
—	給水管	ポリ粉体ライニング鋼管 (JMA K 132) PD
—	雑排水管	屋内 硬質塩化ビニル管 (JIS K 6742)
—	給湯管 (往)	耐熱性内外面ライニング鋼管
—	給湯管 (還)	耐熱性内外面ライニング鋼管
—	膨張管	屋内 配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—	プロパンガス	配管用炭素鋼管-白 (JIS G 3452)
—	油管	屋内 配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—	弁類	
—	水栓類	
—	床上掃除口	
—	床排水金物	
—	排水金具	
—	既設管切断及び接続箇所	
—	EXP-J	ベローズ形伸縮継手
—	伸縮継手	
—	ポンプ	
—	ストレーナー	
—	蒸気トラップ	
—	減圧弁	

※注記 1. () 内サイズは天井配管を示す。
2. [] の室名は直天井を示す。

凡例 (空調)		
記号	名称	備考
—OR—	油管 (還)	配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—O—	油管 (往)	配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—S—	低圧蒸気管	全て (0.5K) 配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—SR—	低圧温水管	全て (0.5K) 配管用炭素鋼管-黒 (JIS G 3452)
—	換気扇	



配置図 S=1/1000



記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校 クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校 クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事		日付	平成27年6月	総数	05/18
	設計者	株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮	検図	担当	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当	図面名称	案内図・配置図・凡例
											縮尺	1/1000
											番号	M-02

※A3版の場合は50%縮尺とする

既設機器表 (クリエーションセンター)

記号	機器名	機器仕様	電気容量			設置場所	備考
			相-V	KW	台数		
B-1	蒸気ボイラー	定格出力: 6,000k g/h 常用出力: 5,000k g/h 燃料: A重油 最大圧力: 7.0kg/cm ² 常用圧力: 5.0kg/cm ² 伝熱面積: 62.5m ² 付属機器: パーナー、押込ファン、給水ポンプ、給水流量計、給油流量計 連続ブロー装置、薬液注入装置、センサー、制御盤 形式: 高尾製作所 (株) FTH-50	3-200	22.1kW	1	クリエーションセンターボイラー室	撤去
TWH-1	硬水軟化装置	全自動イオン交換式 容量: 9m ³ x/h x120T/サイクル 形式: 東西化学産業(株) FS-IV-160			1	クリエーションセンターボイラー室	撤去
P-8	オイルギヤポンプ	φ25 x 50L/min x 3kg/cm ²	3-200	0.75kW	2	クリエーションセンターボイラー室	撤去
T-1	ホットウェルタンク	鋼板製 容量: 8000L 寸法: 1800 x 2600 x 2000H			1	クリエーションセンターボイラー室	撤去
T-2	オイルタンク	地下埋設 容量: 15000L 寸法: 1800φ x 6934L			1	屋外	山砂充填処理
T-3	オイルサービスタンク	鋼板製 容量: 880L 寸法: 850φ x 1500L 鉄骨架台1500H付			1	クリエーションセンターボイラー室	撤去
H-1	スチームヘッダー	寸法: 250φ x 2400L 鉄骨架台共 (第2種圧力容器)			1	クリエーションセンターボイラー室	撤去
FE-2	排風機	形式: 有圧換気扇 600φ x 9000m ³ /h	1-100	20W	1	クリエーションセンターボイラー室	
UF-1	コンベクター	型式: 床置型 (AF) 放熱能力: 1.5kw 蒸気圧力: 0.05Mpa 入口空気温度: 20℃ 参考寸法: 600L x 1600 x 500H			2	クリエーションセンター事務室・休憩室	撤去
FF-1	フラッシュタンク	φ1,300 x 2,500H t=3 鋼板製			1	屋外	撤去

既設機器表 (学生寮)

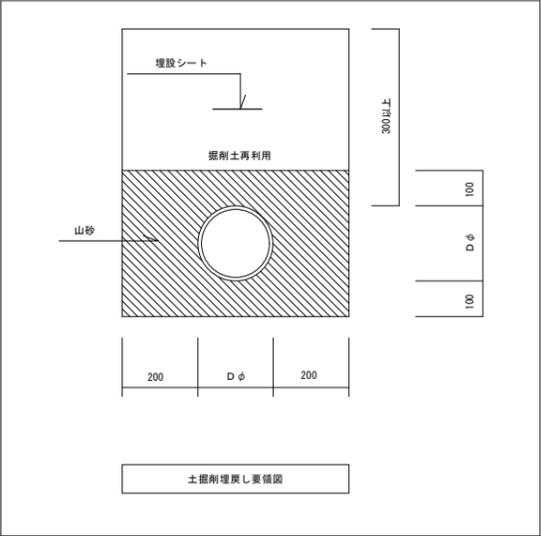
記号	名称	機器性能	電気容量			設置場所	備考
			相-V	KW	台数		
BH-1	温水ボイラ	真空式、1回路式、缶体出力 300,000kcal/h 以上 給湯能力 300,000kcal/h 以上 給湯量 5,450l/h 伝熱面積 7.9m ² 圧力損失 5.0m 最高使用圧力 50m 燃料 A重油 38.5L/h 制御盤付 (株) ヒラカフ VEC-30ESN-H-A	3-200	0.6 0.5	1 1	寮管理棟ボイラー室	
BH-2	温水ボイラ	真空式、1回路式、缶体出力 300,000kcal/h 以上 給湯能力 300,000kcal/h 以上 伝熱面積 4.7m ² 最高使用圧力 50m 燃料 A重油 40.2L/h 制御盤付 (株) ヒラカフ VEC-30ES	3-200		1	寮管理棟ボイラー室	撤去
THS-1	貯湯槽	タテ型 1800φ x 2760H 有効容量 6m ³ SUS 444製、鏡板 6mm、鋼板 6mm 内面 '300 バフ研磨			2	寮管理棟ボイラー室	
TO-1	オイルタンク	屋外設置タテ型 950φ x 3120H 有効 1600L 鋼板製、側、底板厚 6mm、蓋 5mm マンホール 450φ x 1個 架台 500φ共			1	屋外	
PHW-1	給湯循環1次ポンプ	ライン型 32φ x 90L/min x 6m SUS製	3-200	0.25	2	寮管理棟ボイラー室	撤去
PHW-2	給湯循環2次ポンプ	ライン型 25φ x 20L/min x 7m SUS製	3-200	0.25	2	寮管理棟ボイラー室	撤去
TE-1	密閉膨張タンク	タンク総容量 400L 最大吸収容量 300L 最高使用圧力 8kg/cm ² G 未満、充填圧力 3.0kg/cm ² G			2	寮管理棟ボイラー室	撤去

新設機器表 (学生寮)

記号	名称	機器性能	電気容量			設置場所	備考
			相-V	KW	台数		
BH-2	温水ボイラ	真空式、1回路式、缶体出力 349kw 以上 設計温水温度 (入口/出口) 5/65℃ 給湯能力 349kw 以上 給湯量 5t/h 伝熱面積 6.9m ² 圧力損失 5kpa 最高使用水頭圧 0.49Mpa 燃料 A重油 38.4L/h 制御盤付	3-200		1	寮管理棟ボイラー室	新設
PHW-1	給湯循環1次ポンプ	ライン型 32φ x 90L/min x 6L/min SUS製	3-200	0.25	2	寮管理棟ボイラー室	新設
PHW-2	給湯循環2次ポンプ	ライン型 25φ x 20L/min x 7L/min SUS製	3-200	0.25	2	寮管理棟ボイラー室	新設
TE-1	密閉膨張タンク	タンク総容量 400L 最大吸収容量 300L 最高使用圧力 8kg/cm ² G 未満、充填圧力 3.0kg/cm ² G			2	寮管理棟ボイラー室	新設

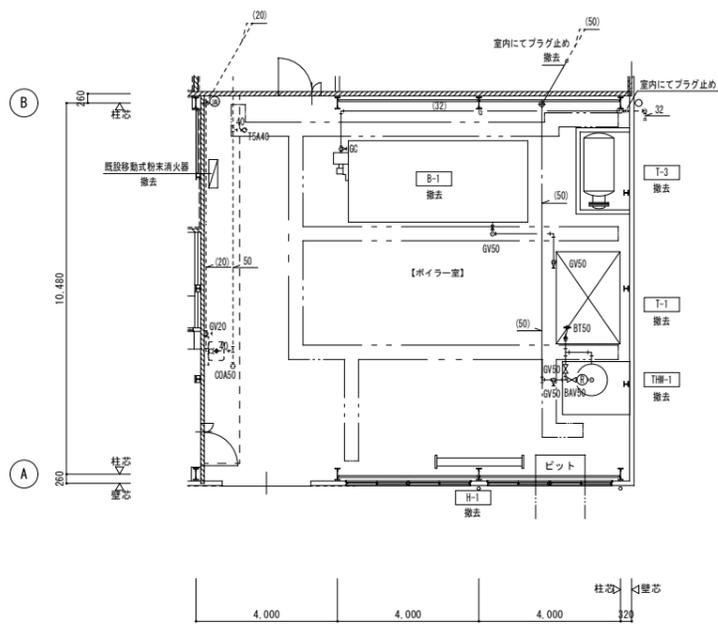
新設衛生器具表

品名	品番	附属品・他	合計台数	1階			備考
				洗面	トイレ	寮管理棟ボイラー室	
サーモスタットバス水栓	TEM47AS BF-M340T	タイマー付	4	2	2		新設
シャワー水栓	TMF49E3 BF-2141TSD	オートストップサーモスタットシャワー金具 (自閉式) 吐水口側オートストップ シャワーヘッドホルダ	47	23	24		新設
横水栓	T200SNR13 LF-7R-13		3	1	1	1	新設
化粧鏡	YM4560F KF-4560A	耐食型	47	23	24		新設
サーモスタット	TM440BX25 BF-20TM-25B		2	1	1		新設

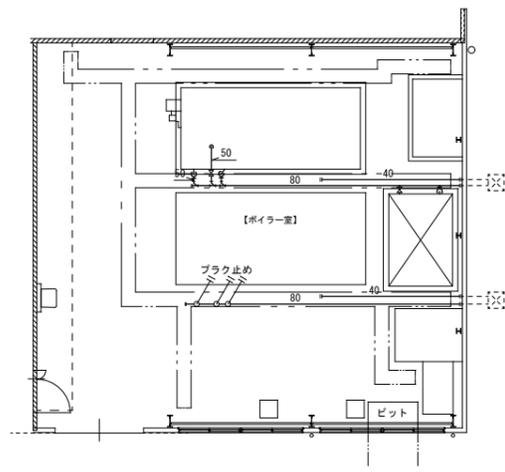


記 事	設計業務名	鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他設計業務				鈴鹿工業高専専門学校				工事名称	鈴鹿工業高専クリエーションセンター等ボイラー設備改修その他工事		日付	平成27年6月	総数	06/18	
	株式会社	ミューパートナーズ	管理建築士一級建築士登録 第242551号	植田 亮	棟 当	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担 当			図面名称	機器表一改修前・改修後		縮尺	番号
													縮尺	番号	M-03		

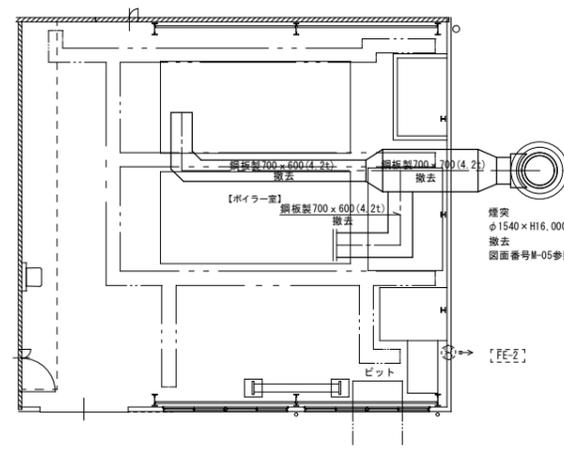
※A3版の場合は50%縮尺とする



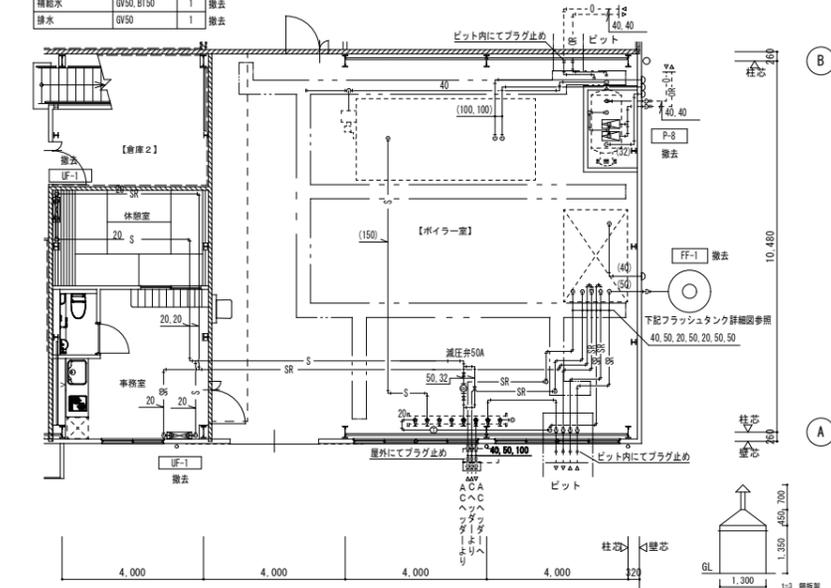
衛生 クリエーションセンターボイラー室平面図 1/100



衛生排水用クリエーションセンターボイラー室平面図 1/100



空調一機突 クリエーションセンターボイラー室平面図 1/100



空調一配管 クリエーションセンターボイラー室平面図 1/100

B-1 蒸気ボイラー			
種別	名称・サイズ	個数	撤去
蒸気	SV150	1	撤去
給水	GV50, FJ-VST50	1	撤去
ガス	GC32	1	撤去
排水	GV50	1	撤去

P-8 オイルギヤポンプ			
種別	名称・サイズ	個数	撤去
給油	GV40	2	撤去
吐出	GV40, GV40	2	撤去

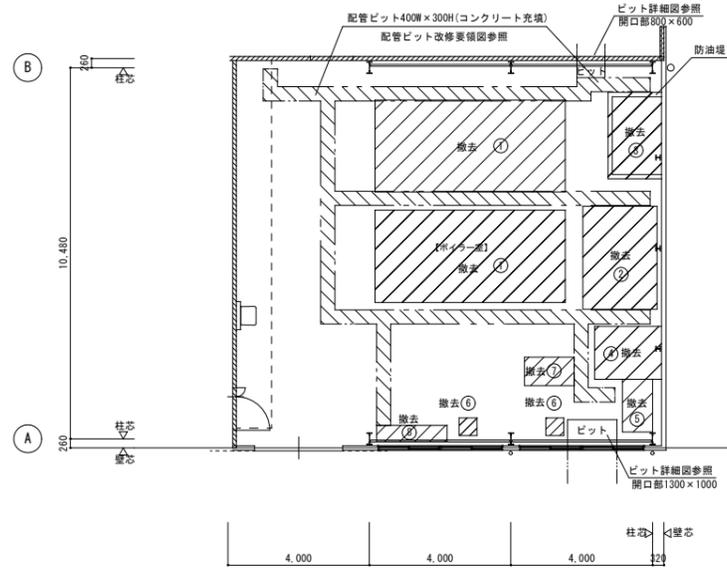
H-1 スチームヘッダー			
種別	名称・サイズ	個数	撤去
蒸気	GV150	2	撤去
蒸気	GV100	3	撤去
蒸気	GV50	1	撤去
蒸気	GV32	2	撤去
蒸気	GV20	1	撤去
蒸気	蒸気トラップ20	1	撤去

T-1 ホットウェルタンク			
種別	名称・サイズ	個数	撤去
蒸気 (通)	GV50	4	撤去
蒸気 (通)	GV32	1	撤去
蒸気 (通)	GV20	2	撤去
補給水	GV50, BT50	1	撤去
排水	GV50	1	撤去

T-3 オイルサービスタンク			
種別	名称・サイズ	個数	撤去
油 (往)	GV40	1	撤去
油 (還)	GV40	1	撤去

太線は撤去を示す
点線は残置を示す

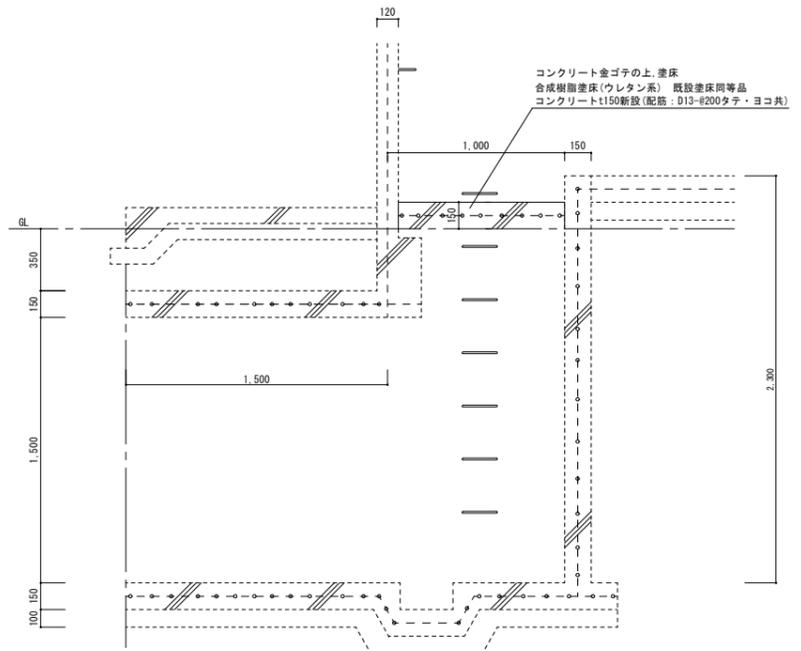
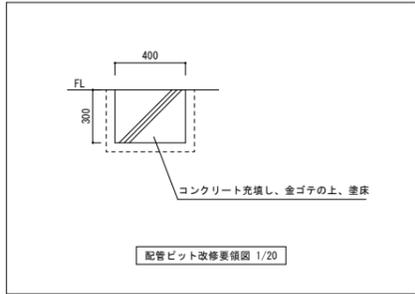
※ () 内サイズは天井を示す。



クリエーションセンターボイラー室平面図 1/100

配管ピットを示す (改修)
基礎部分を示す (撤去)

撤去機器基礎寸法 (参考)			
番号	名称	寸法 (参考値)	個数
①	ボイラー用	5400×2600×100H	2
②	ホットウェルタンク用	2100×2900×200H	1
③	オイルサービスタンク用	1500×2400×200H	1
④	電動給水ポンプ用	1900×1500×200H	1
⑤	真空給水ポンプ用	850×1500×200H	1
⑥	ヘッダー用	500×500×100H	2
⑦	旧真空給水ポンプ用	1400×800×200H	1
⑧	制御盤用	2000×450×100H	1

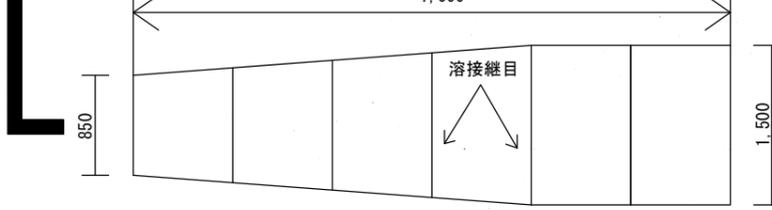
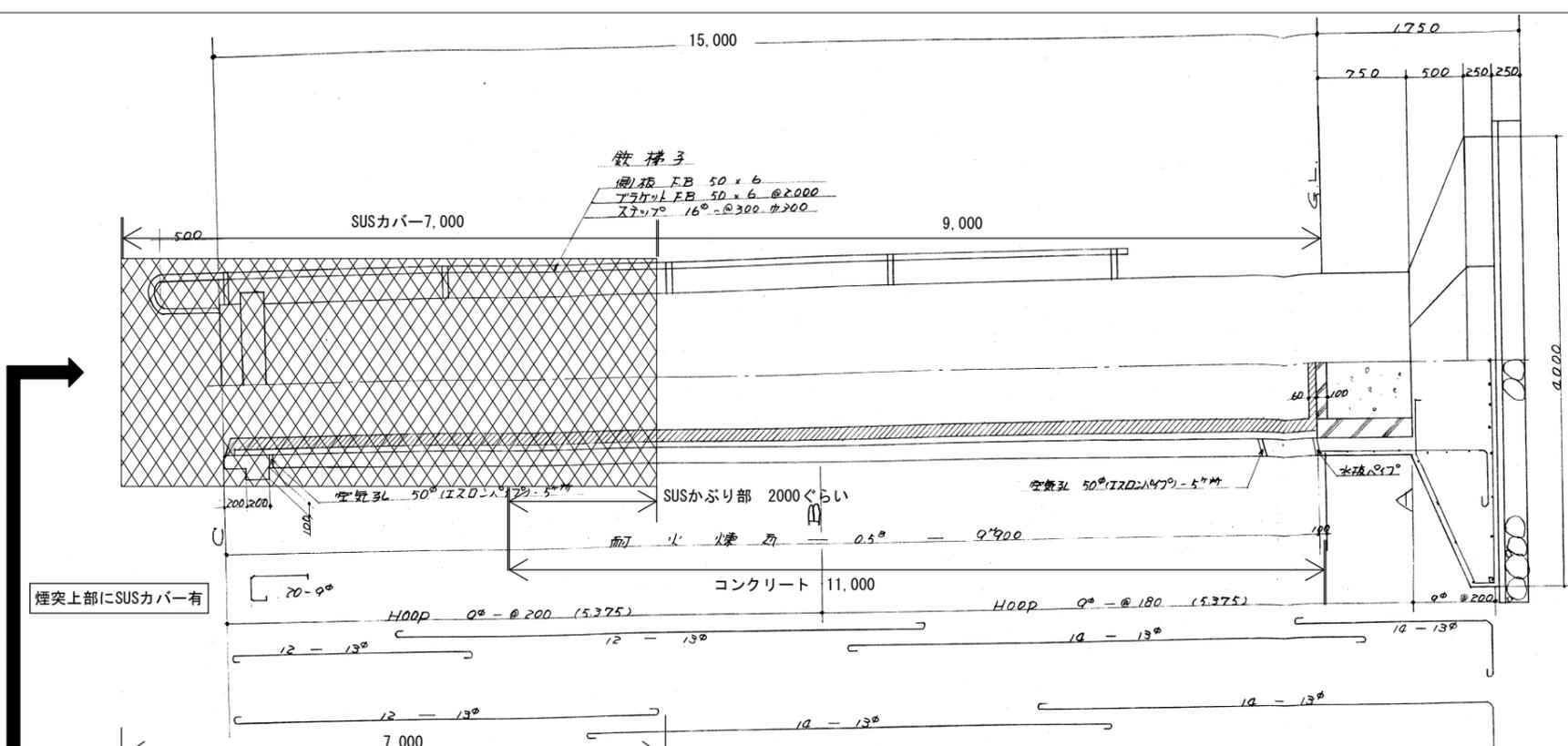


ピット詳細図 1/20

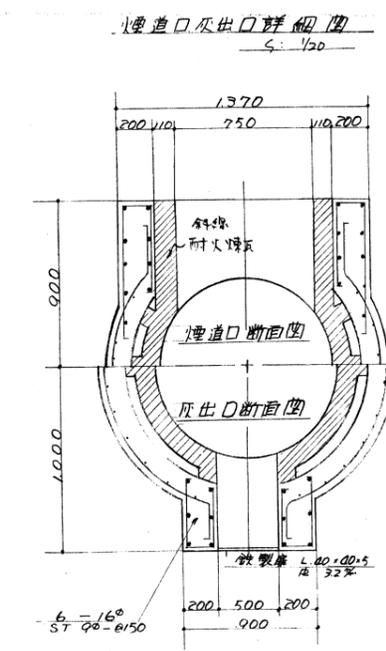
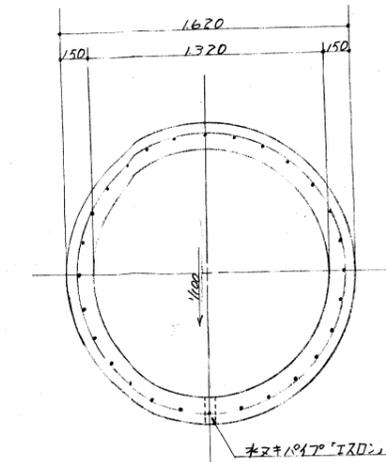
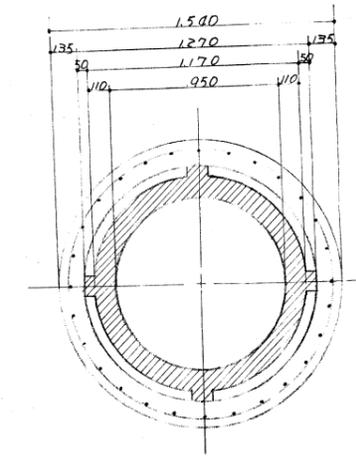
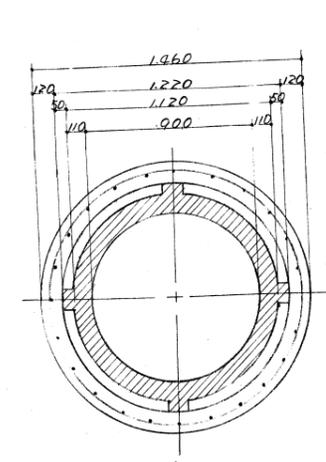
※ボイラー室は既設機器、配管、配線、煙突、基礎等の全てを撤去し、現状の床レベルに合わせて、モルタル金ゴテの上、塗床=2 (合成樹脂ウレタン系) を行う。
塗床：弾性ウレタン樹脂系
既設塗床材：ユータックFエコ (日本特殊塗料 (株))

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	07/18			
	株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士一級建築士登録 第242551号 植田 亮	検図	担当	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当	図面名称	【クリエーションセンター】 衛生・空調一ボイラー室平面図	縮尺	1/100 1/20	番号

※A3版の場合は50%縮尺とする

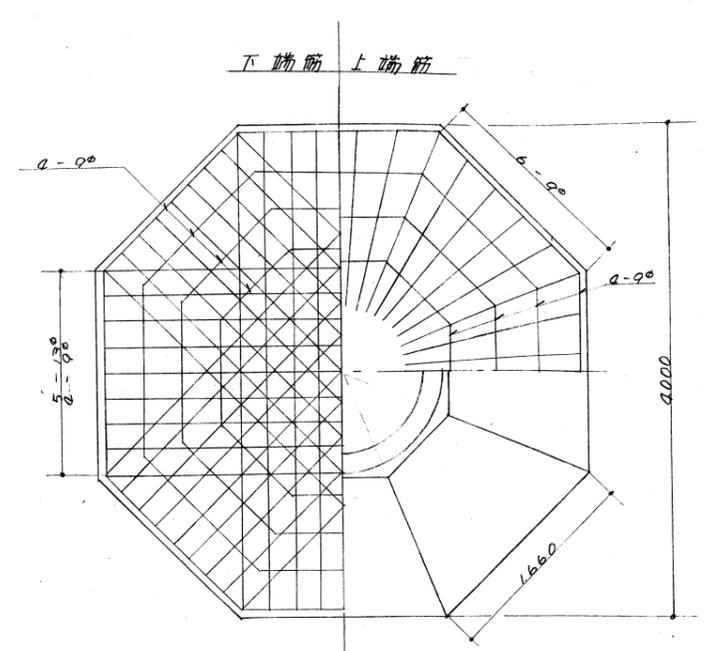


SUSカバー詳細

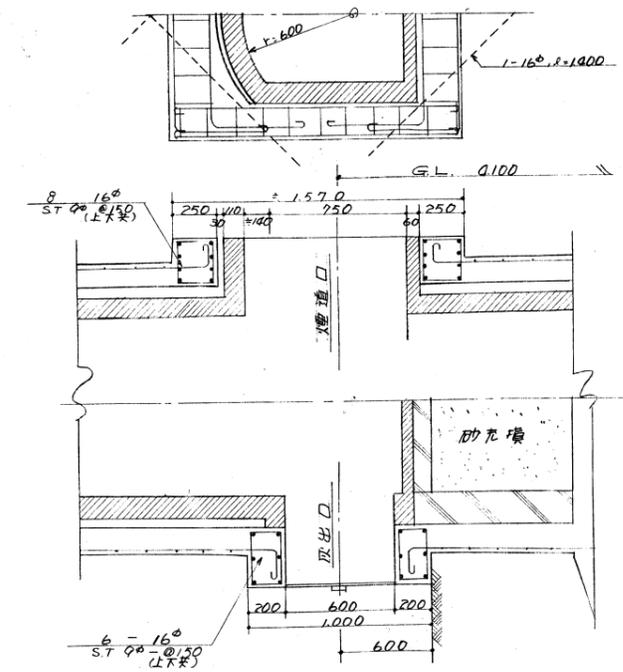


煙道口灰出口詳細図

立断面図 S:1/30



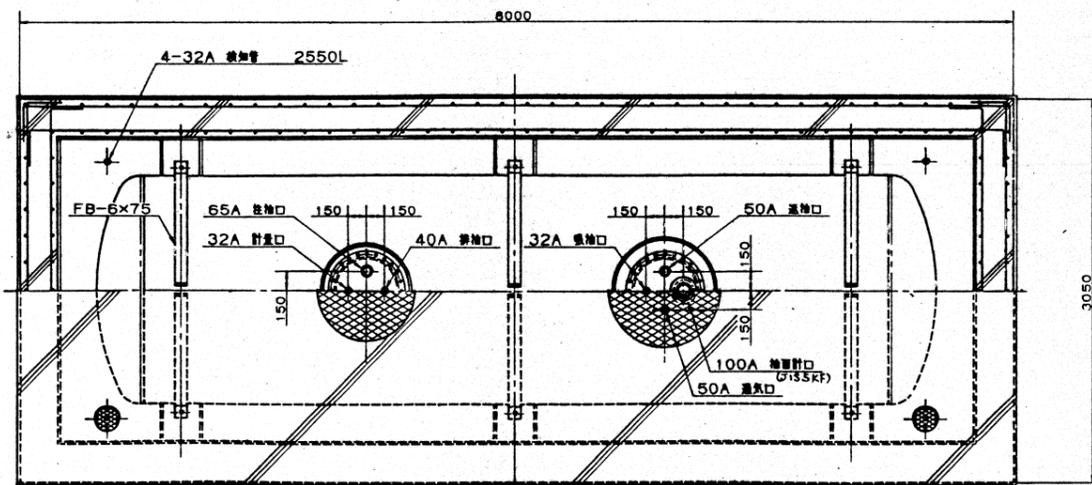
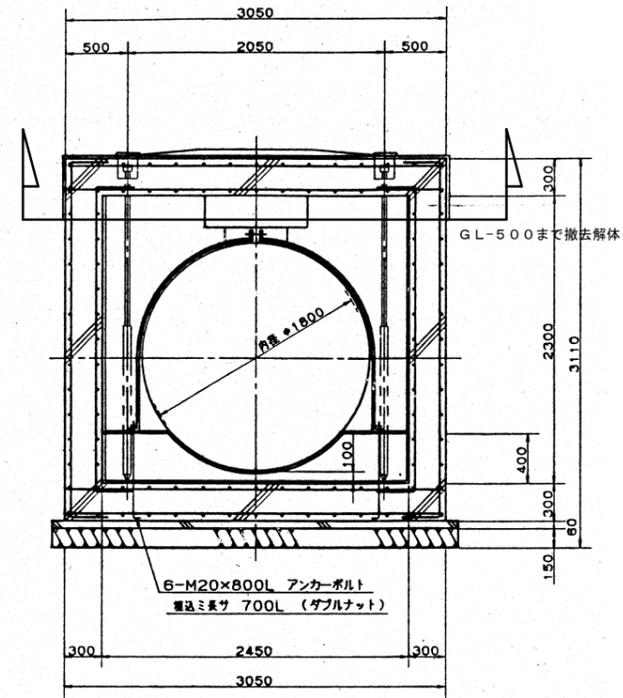
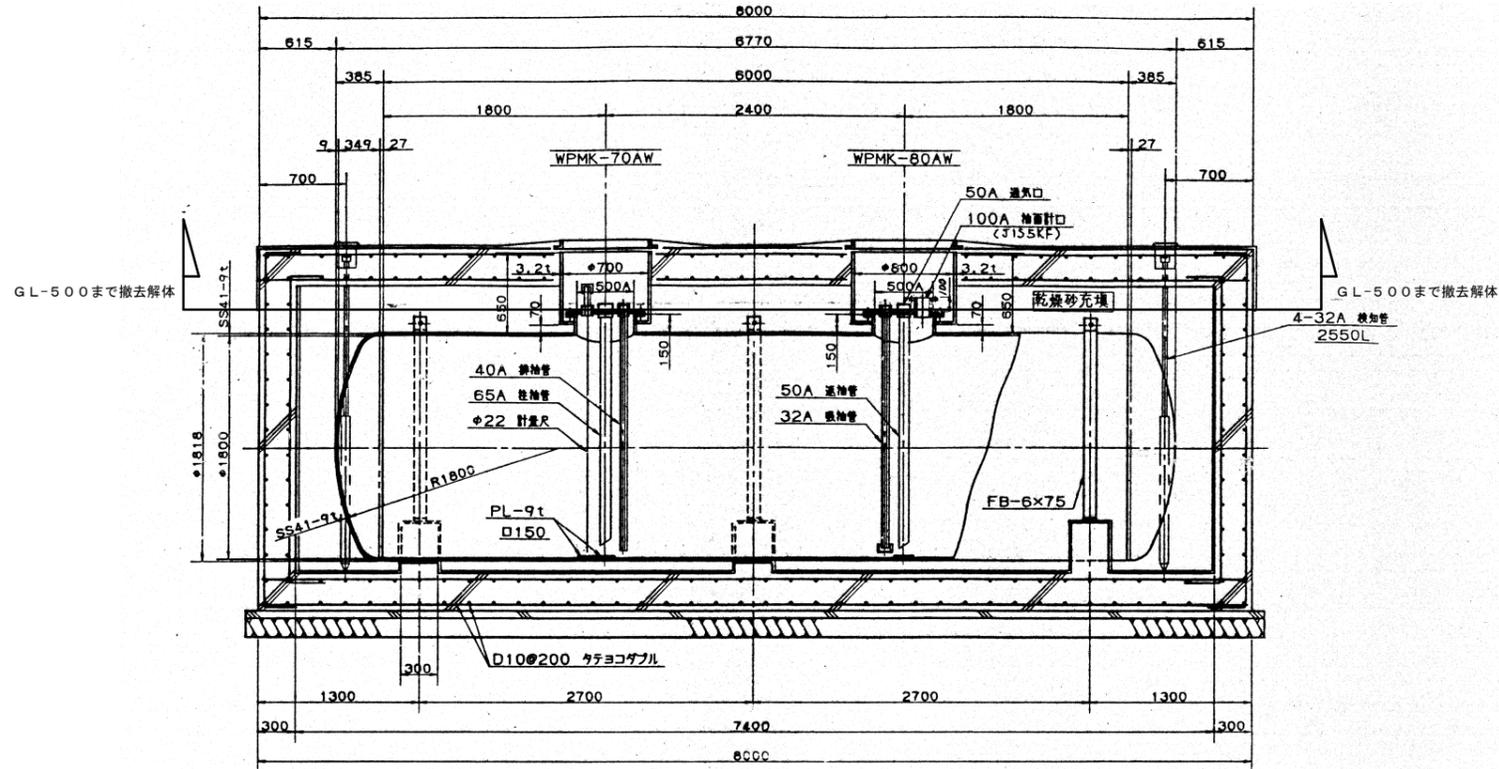
基礎配筋図 S:1/30



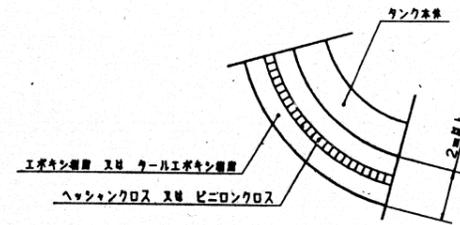
(注記)
煙突は全て解体の上、撤去処分とする。(基礎共)
基礎撤去後は、山砂埋め戻しの上、地盤整地まで本工事とする。

記	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	08/18											
	設計業務内容	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他設計業務				事務部長		総務課長		経理係長		施設係長		担当		図面名称	【クリエーションセンター】 煙突解体撤去図	縮尺		番号	M-05	
事	設計者	株式会社 ミューパートナーズ				管理建築士	一級建築士登録 第242551号	楠田 亮	検図		担当											

※A3版の場合は50%縮尺とする



※計量口・検知管・通気口・配管・マンホール及び計器類等は全て撤去とする。

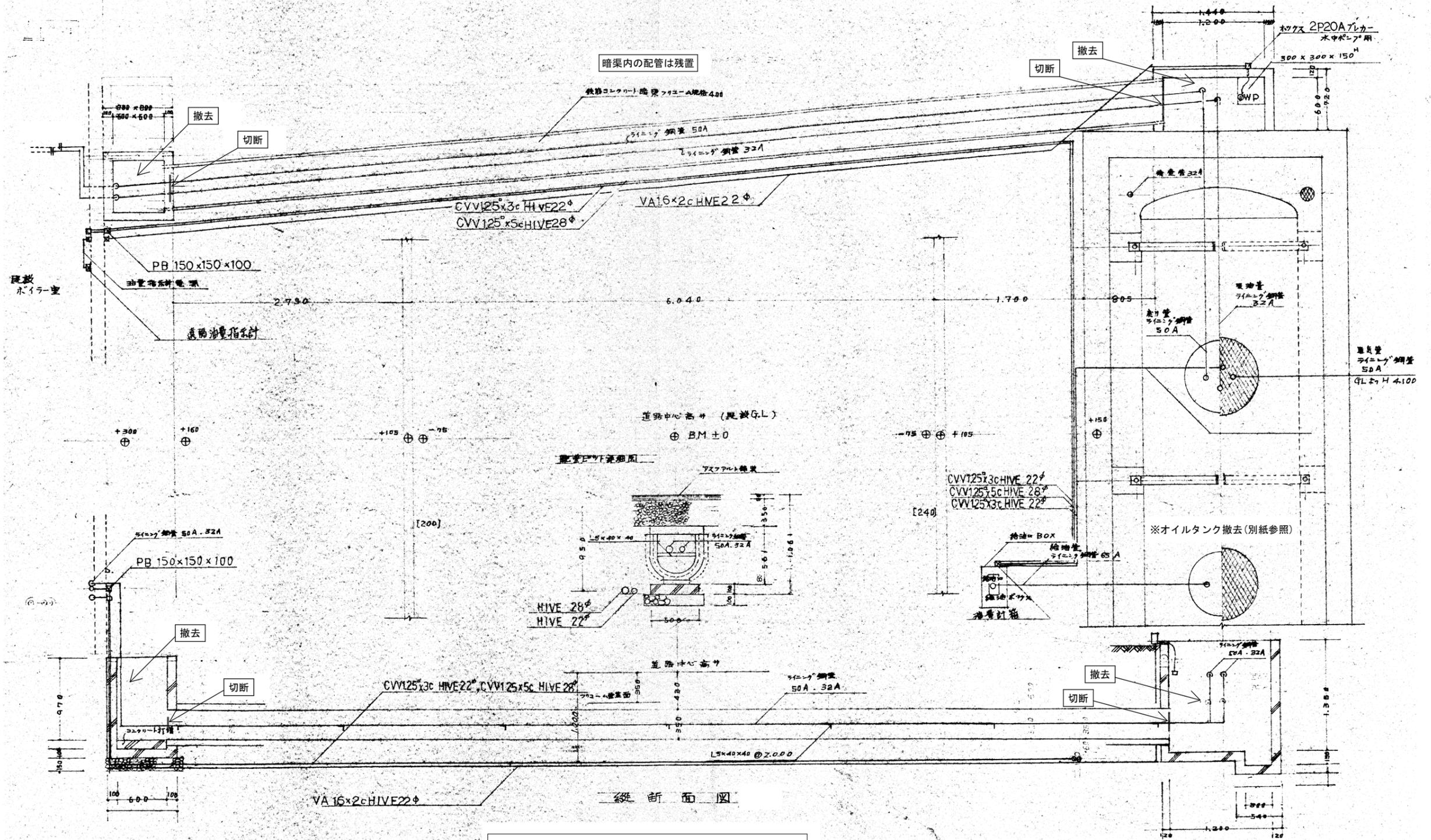


エポキシ樹脂塗り

- 【オイルタンク撤去工事】
- ・コンクリート躯体はGL-500まで、研りの上、撤去とする。
 - ・タンク内の配管、計器類等の撤去処分を行うこと。
 - ・タンク内部の重油抜き取り後、消毒清掃を行い、山砂充填とする。
 - ・タンク撤去後、山砂等にて地盤整地を行うこと。
 - ・オイルタンク撤去に伴う、所轄庁へ撤去届出は本工事で行うこと。

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	09/18										
		鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他設計業務				事務部長		総務課長		経理係長		施設係長		担当		図面名称	【クリエーションセンター】 オイルタンク撤去図	縮尺		番号	M-06
		株式会社 ミューパートナーズ 管理建築士一級建築士登録 第242551号 植田 亮				検図															

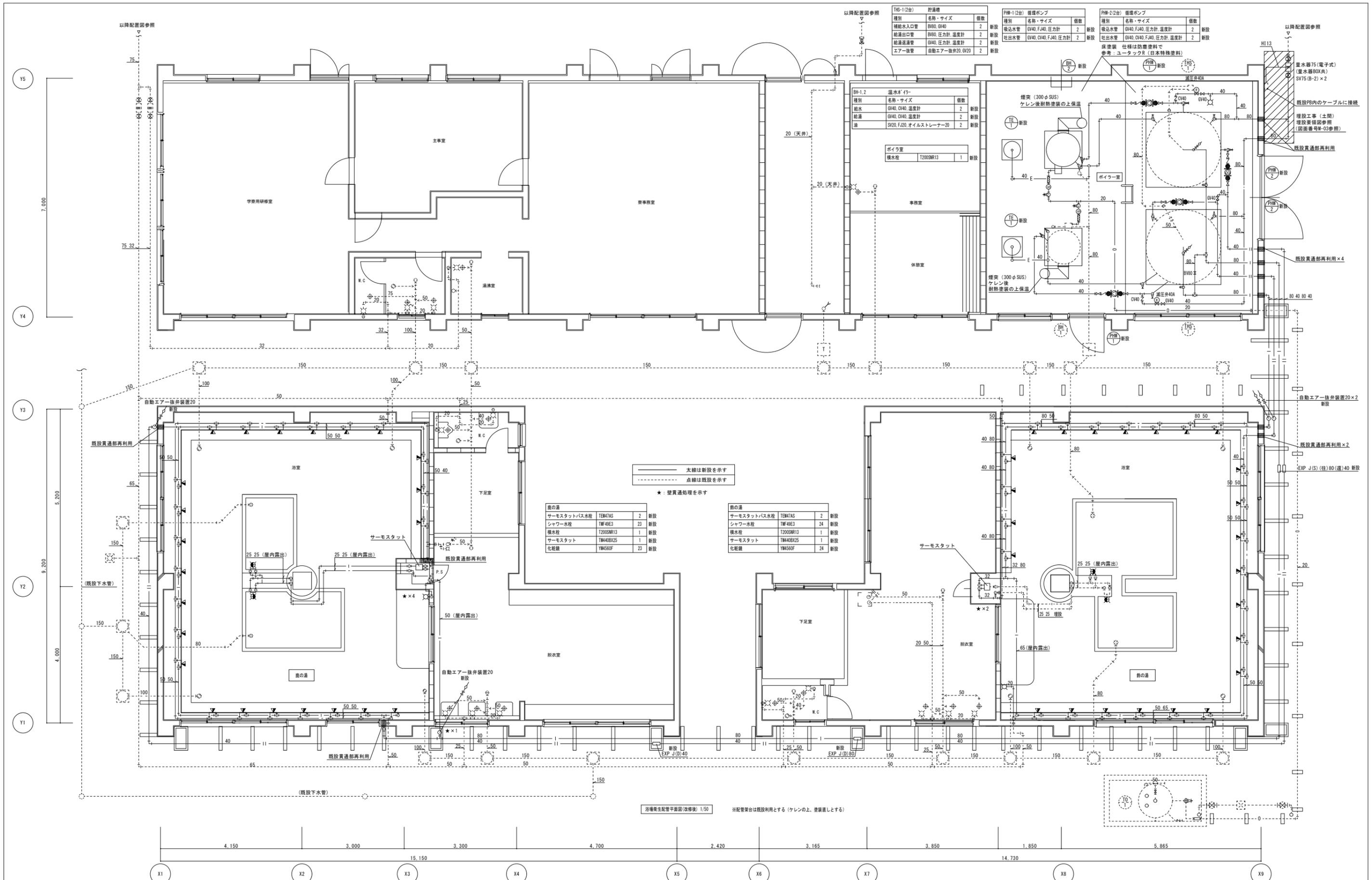
※A3版の場合は50%縮尺とする



※オイルタンク撤去に伴い、オイル配管、計装用配管配線及び油量計箱等を撤去処分とする。

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	10/18
		鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他設計業務				事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当	
	設計者	株式会社 ミューパートナーズ				管理建築士	一級建築士登録	第242551号	植田 亮	検印	担当
	図面名称	【クリエーション】				図面名称	オイルタンク廻り配管図	縮尺		番号	M-07

※A3版の場合は50%縮尺とする



TMS-1 (2台) 貯湯槽		
種別	名称・サイズ	個数
補給水入口管	φ80, φ40	2
給湯出口管	φ80, 圧力計, 温度計	2
給湯送湯管	φ40, 圧力計, 温度計	2
エアー接管	自動エアー抜弁φ20, φ20	2

PHM-1 (2台) 循環ポンプ		
種別	名称・サイズ	個数
吸込水管	φ40, FJ40, 圧力計	2
吐出水管	φ40, CV40, FJ40, 圧力計	2

PHM-2 (2台) 循環ポンプ		
種別	名称・サイズ	個数
吸込水管	φ40, CV40, 圧力計, 温度計	2
吐出水管	φ40, CV40, FJ40, 圧力計, 温度計	2

BHI-1,2 温水タンク		
種別	名称・サイズ	個数
配水	φ40, CV40, 温度計	2
配湯	φ40, CV40, 温度計	2
浴	SV20, FJ20, オイルストレーナーφ20	2

ボイラ室		
機水栓	T200SNR13	1

浴の湯		
サーモスタットバス水栓	TM47AS	2
シャワー水栓	TM49E3	23
機水栓	T200SNR13	1
サーモスタット	TM440BK25	1
化粧鏡	YM450F	23

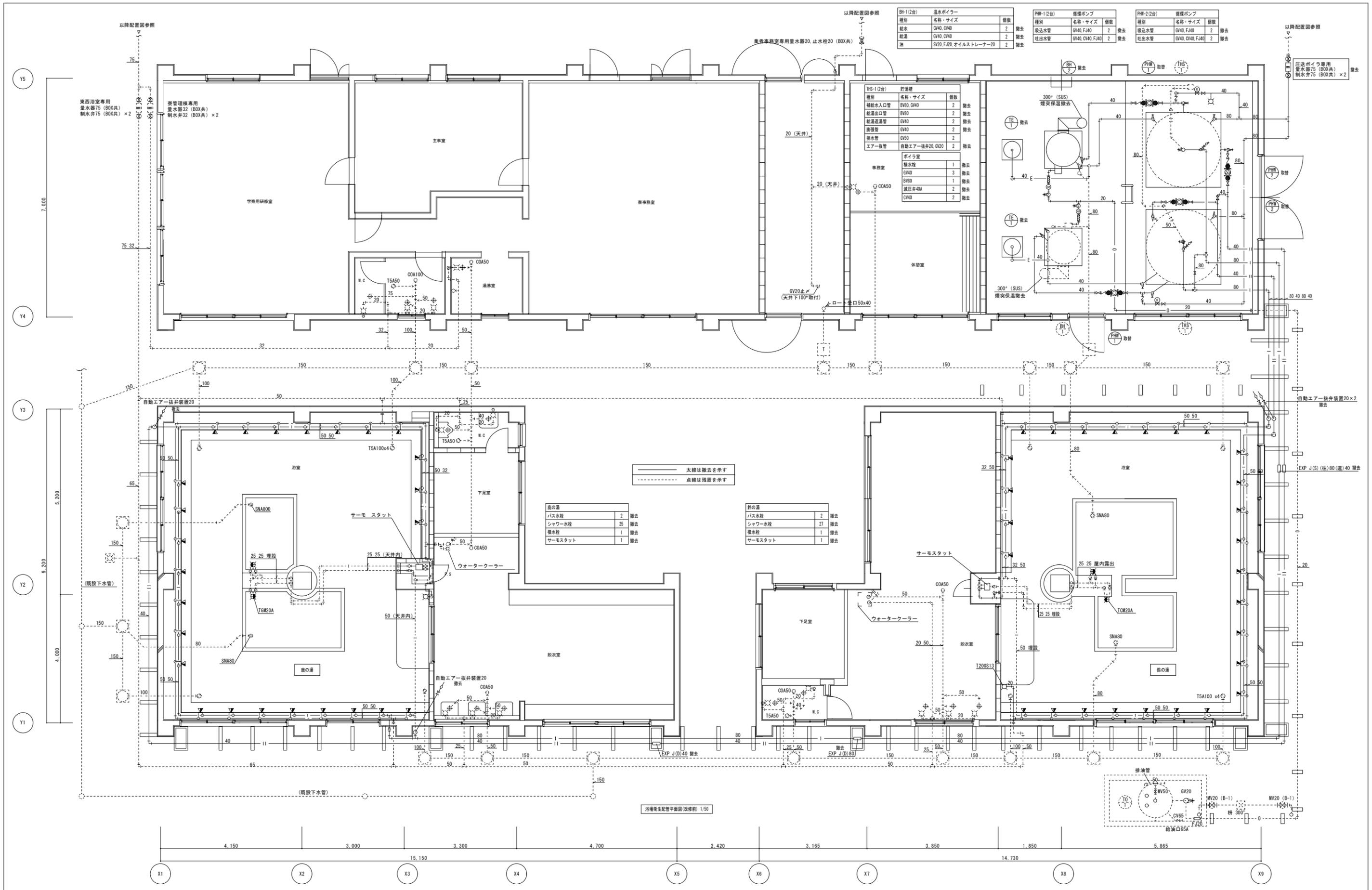
別の湯		
サーモスタットバス水栓	TM47AS	2
シャワー水栓	TM49E3	24
機水栓	T200SNR13	1
サーモスタット	TM440BK25	1
化粧鏡	YM450F	24

太線は新設を示す
 点線は既設を示す
 ★：壁貫通処理を示す

浴場衛生配管平面図(改修後) 1/50 ※配管架台は既設利用とする(ケレンの上、塗装面とする)

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校 浴場衛生配管平面図(改修後)			工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	13/18	
	設計者	株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士 一級建築士登録 第24251号 植田 亮	検図	担当	図面名称	【奈管理棟】 浴場衛生配管平面図(改修後)	縮尺	1/50	番号	M-10
	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当						

※A3版の場合は50%縮尺とする



BH-1(2台) 温水ボイラー	
種類	名称・サイズ
給水	GV40, CV40
給湯	GV40, CV40
油	SV20, F420, オイルストレーナー20

PHM-1(2台) 循環ポンプ	
種類	名称・サイズ
電込水管	GV40, F440
吐出水管	GV40, CV40, F440

PHM-2(2台) 循環ポンプ	
種類	名称・サイズ
電込水管	GV40, F440
吐出水管	GV40, CV40, F440

TRH-1(2台) 貯湯槽	
種類	名称・サイズ
補給水入口管	SV80, GV40
給湯出口管	SV80
給湯送湯管	GV40
配湯管	GV40
排水管	GV50
エア抜管	自動エア抜弁20, GV20

ボイラ室	
機水栓	1
GV40	3
BV80	1
減圧弁40A	2
CV40	2

浴の湯	
バス水栓	2
シャワー水栓	25
機水栓	1
サーモスタット	1

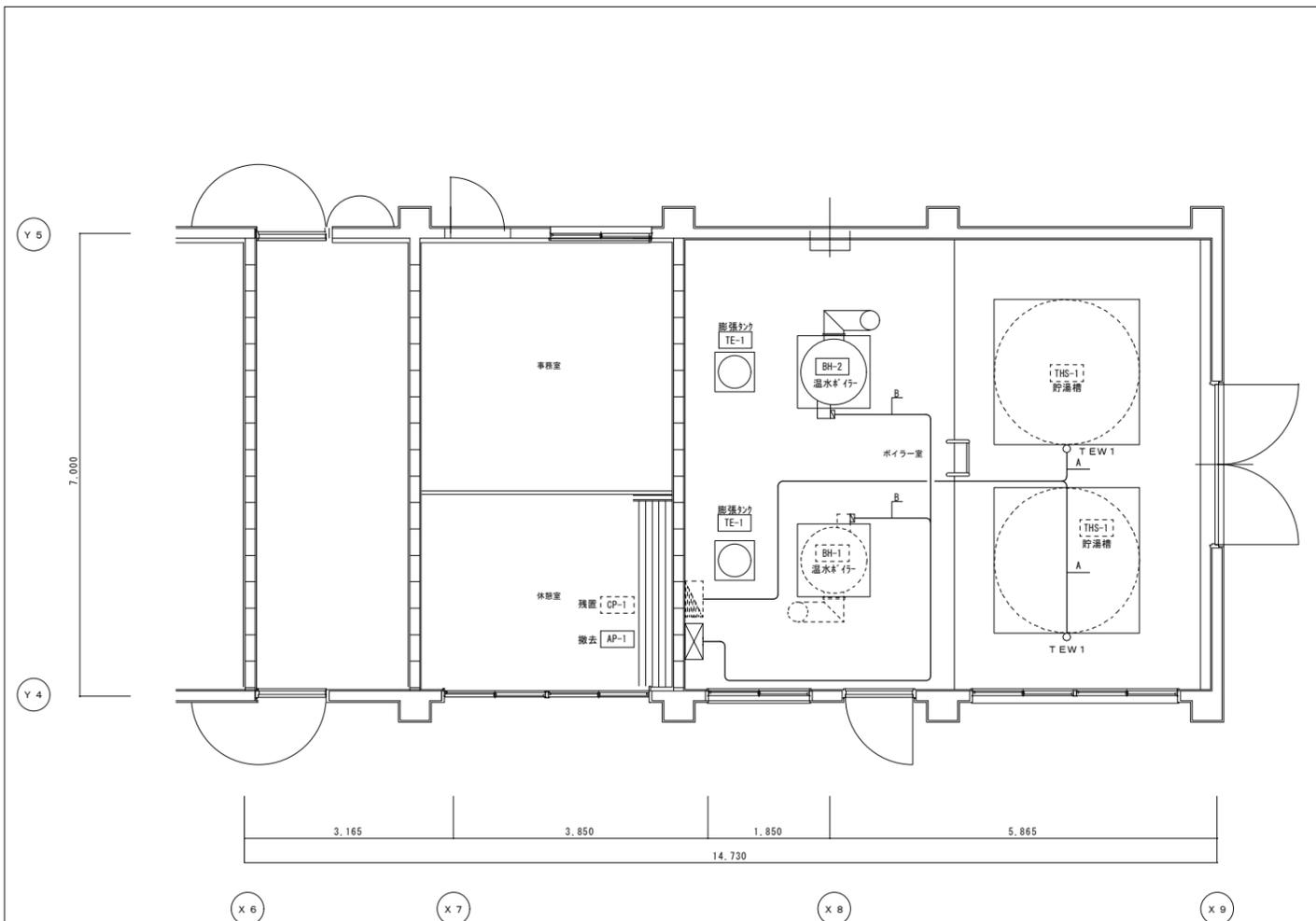
浴の湯	
バス水栓	2
シャワー水栓	27
機水栓	1
サーモスタット	1

太線は撤去を示す
点線は残置を示す

浴場衛生配管平面図(改修前) 1/50

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他設計業務	工事名称	鈴鹿工業高等専門学校等ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	15/18	
	株式会社	ニューパートナーズ	事務部長	総務課長	経理係長	施設係長	担当		
	管理建築士一級建築士登録第242551号	植田 亮	図面名称			【奈管理棟】 浴場衛生配管平面図(改修前)	縮尺	1/50	番号

※A3版の場合は50%縮尺とする



寮管理棟ボイラー室平面図 1/50 (改修前)

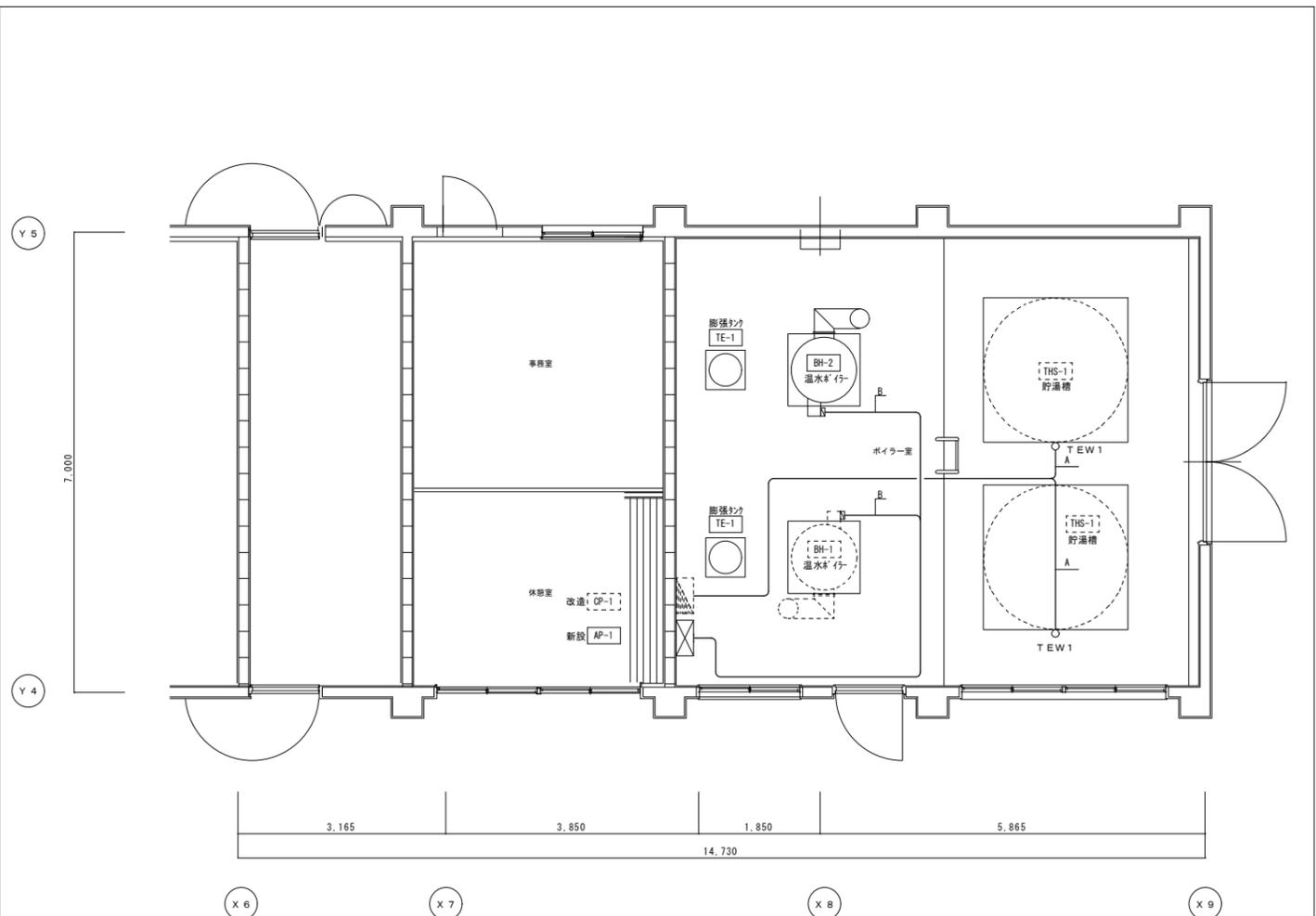
※配管は全て露出配管とする

凡例記載 (改修前・後)	
	動力盤
	計装盤

配線明細 (計装) 撤去

- A -			
I V 2 口	x 3	(E 1 9)	T E W 1
- B -			
I V 2 口	x 5	(E 2 5)	B H - 1, 2

—— 太線は撤去を示す
 - - - - 点線は残置を示す



寮管理棟ボイラー室平面図 1/50 (改修後)

※配管は全て露出配管とする

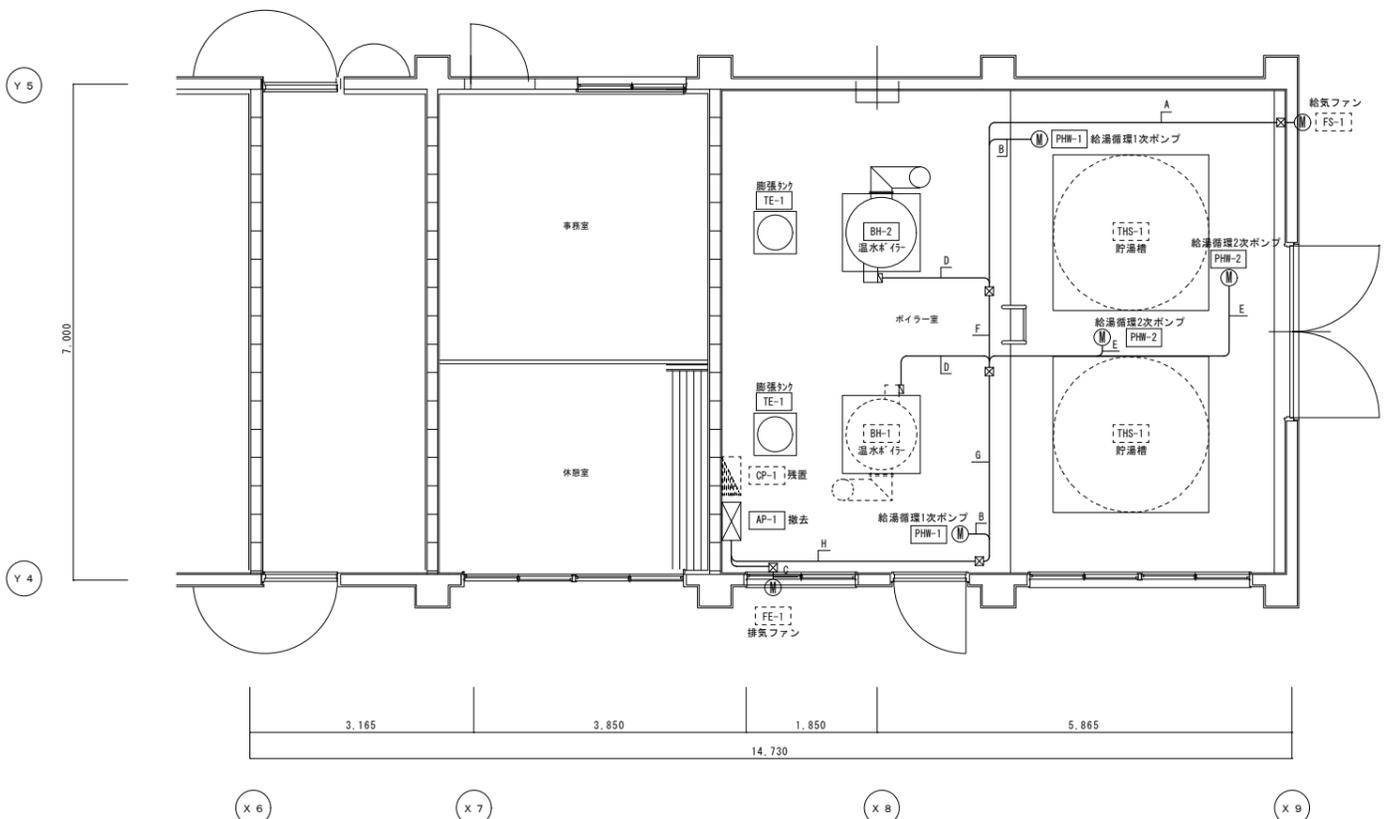
配線明細 (計装) 新設

- A -			
E M - C E E S 2 口	- 3 C x 1	(E 2 5)	T E W 1
- B -			
E M - C E E 2 口	- 5 C x 1	(E 3 1)	B H - 1, 2

—— 太線は新設を示す
 - - - - 点線は既設を示す

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他設計業務				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他工事		日付	平成27年6月	総数	17 / 18
	設計者	株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮	検図	担当	図面名称	【寮管理棟】 自動制御設備 ボイラー室平面図 (改修前・改修後)		縮尺	1 / 50	番号	M-14
	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他設計業務				工事名称	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他工事		日付	平成27年6月	総数	17 / 18
	設計者	株式会社 ミューパートナーズ	管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮	検図	担当	図面名称	【寮管理棟】 自動制御設備 ボイラー室平面図 (改修前・改修後)		縮尺	1 / 50	番号	M-14

※A3版の場合は50%縮尺とする



寮管理棟ボイラー室平面図 1/50 (改修前)
※配管は全て露出配管とする

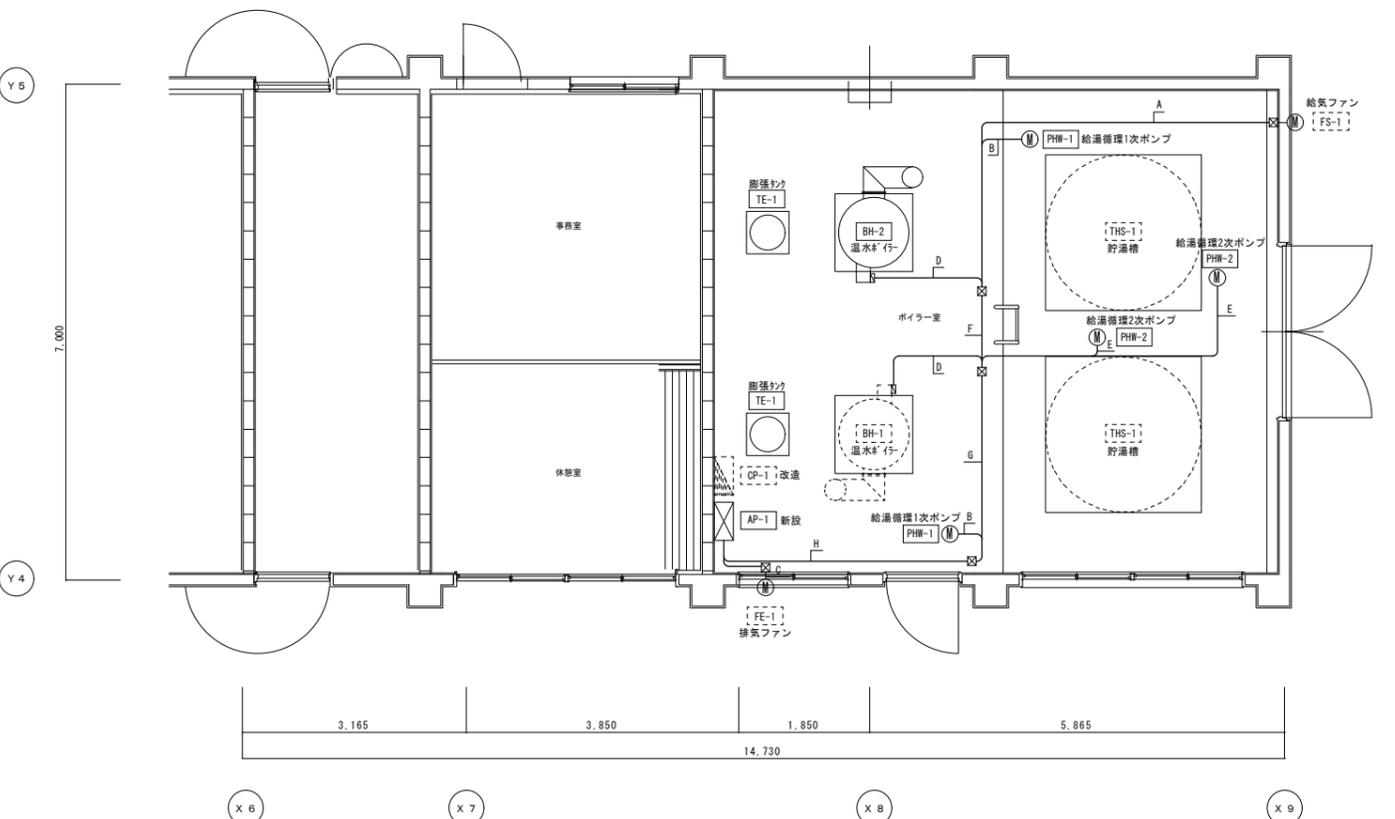
配線明細 (動力2次) 撤去

-A-	IV1.6	x3	E1.6(E19)	FS-1
-B-	IV1.6	x3	E1.6(E19)	PHW-1
-C-	IV1.6	x3	E1.6(E19)	FE-1
-D-	IV2.0	x3	E2.0(E25)	BH-1
-E-	IV1.6	x3	E1.6(E19)	PHW-2
-F-	IV1.6	x6	E1.6x2(E25)	PHW-1
				FS-1
				BH-1
-G-	IV1.6	x6	E1.6x2(E25)	PHW-1
				FS-1
				PHW-2x2
				BH-1x2
-H-	IV1.6	x15	E1.6x5(E39)	PHW-1x2
				FS-1
				PHW-2x2
				BH-1x2
	IV2.0	x6	E2.0x2(E25)	BH-1x2

凡例記載 (改修前・後)

	動力壁
	計装壁
	各機器電源
	ブルボックス

太線は撤去を示す
点線は残置を示す



寮管理棟ボイラー室平面図 1/50 (改修後)
※配管は全て露出配管とする

配線明細 (動力2次) 更新

-A-	EM-CE2.0	-	4C x 1 (E25)	FS-1
-B-	EM-CE2.0	-	4C x 1 (E25)	PHW-1
-C-	EM-CE2.0	-	4C x 1 (E25)	FE-1
-D-	EM-CE3.5D	-	4C x 1 (E31)	BH-1
-E-	EM-CE2.0	-	4C x 1 (E25)	PHW-2
-F-	EM-CE2.0	-	4C x 2 (E39)	PHW-1
				FS-1
				BH-1
-G-	EM-CE3.5D	-	4C x 1 (E31)	BH-1
-H-	EM-CE2.0	-	4C x 4 (E51)	PHW-1
				FS-1
				PHW-2x2
				BH-1x2
-H-	EM-CE2.0	-	4C x 5 (E51)	PHW-1x2
				FS-1
				PHW-2x2
				BH-1x2
	EM-CE3.5D	-	4C x 2 (E39)	BH-1x2

太線は新設を示す
点線は既設を示す

記 事	設計業務名	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他設計業務	工事名称	鈴鹿工業高等専門学校 寮管理棟ボイラー設備改修その他工事	日付	平成27年6月	総数	18 / 18
	株式会社	ミーパートナーズ 管理建築士 一級建築士登録 第242551号 植田 亮	図面名称	【寮管理棟】 自動制御設備 動力2次側 ボイラー室平面図 (改修前・改修後)	縮尺	1/50	番号	M-15

※A3版の場合は50%縮尺とする